

小説は虹が架かったときに生まれる

◆小川 学年の初めに国語の教科書をいた
だくと、どんな作品が載っているのかなと
思っで見るのが楽しみでした。よく覚えて
いるのは「こころ」「舞姫」、あとは「山月
記」が非常に忘れがたいです。でも、私が
高校生の頃に定番だったものが、今変わっ

てきているんでしょうね。
◆幸田 小川先生が高校生のときに人気教
材だった「こころ」「山月記」、あるいは「羅
生門」などは、今日までずっと定着してい
るような状況ですね。ですから、高校の国
語教育というと、小川先生の頃と今の授業
の光景というのはそれほど変わらないと思
います。

◆小川 高校生の私にとっては、自分の作
品が教科書に載るなど、信じられないこと
です。ですから、ものすごく時代が変わっ
てしまったようなイメージなんですけれ
ど。

◆幸田 たしかにそうですね。小川先生の
作品は各社、ぜひ載せたいと考えていて、
現在一五冊くらいの教科書に採録されてい
ます。教科書に現代作家の適当な長さの作
品を入れようとする、どうしても予定調
和的になったり、教訓的な話になったりし
がちですが、小川先生の作品は違います。
◆小川 私の小説は、たしかに結論があい
まいで、読者をここへ運びたいという目的
地が最初から決まっているわけではないま
せん。

◆幸田 でも、小川先生の作品は、コント
ラストというか、正反対なものが同居して
いるイメージがあるんですね。美とグロテ
スクであったり、瞬間と長い時間であつた
り、静と動であったり。言葉の奥行きや、
その作品の奥深さみたいなものを感じとれ
る、稀有な現代作家なんじゃないかと思
うんです。

◆小川 ありがとうございます。AとBと

小川洋子

戦後最大規模ともいわれる高校国語の学習指導要領改訂。
文学はどうなるの？ 実用的な文章を扱う意味って？
これからの国語について語り合っていました。
(2018年8月24日、大修館書店にて)



●小川洋子
小説家。多くの作品
が教科書に掲載され
ている。近著に『口
笛の上手な白雪姫』
『不時着する流星た
ち』など。



●幸田国広
早稲田大学教育学部
教授。高校国語教育
の歴史や新学習指導
要領に詳しい。著書
に『高等学校国語科
の教科書構造』など。

幸田国広 ×

未来につながる 国語の力

〈対談〉

いう、遠いところにあると思っっていたもの
が、実は間に虹が架かっているんだなとわ
かったときに、小説って書けるんです。自
分の中にある、すでにもっているもので小
説を書くのではなくて、自分がもつていな
いものと出会ったとき——。数学はわかり
やすい例なんですけれど、数学者なんて自
分とは縁がないと思っっていたのに、実は美

しさを求めている人々なんだと気づかされ
たとき、パッと虹が架かって、ああ、これ
は小説になるなと直感するんです。結局、
正解は何かはつきりはわからないけれど、
読んだ生徒さんたちが意見を交わし、話し
合う過程の中で、いろいろ見えてくるよう
な作品が書ければいいなと思っっています。
◆幸田 まさにこれから新しく変わる高校

古典と現代をつなぎ直す

◆幸田 小川先生の「千年の時が与えてく
れる安堵」という随筆で、『枕草子』のこと
を書いておられましたね(『カラーひよこ
コーヒー豆』所収)。あれがまさに「言語文
化」という新しい必修科目の精神なんです。
現代の我々が、生涯にわたって言語文化と
しての古典に親しめるようにするには、ど
んなふうな古典と向き合っって、どんなふう
に古典を学べばいいのか。「言語文化」は、
分断された古典と現代をつなぎ直すとい
う、大きなソフトチェンジをしようとして
つくられた科目なんです。

◆小川 私も高校時代にちゃんと古典を勉強しておけばよかったのに、と思います。幸いこういう仕事をしていますので、教科書を読み返したりして、実は古典がおもしろいんだということに大人になって気づくんです。それに現代の作家の新訳などで、文法の規則を覚える苦行から解放されて読むと、文学として大変おもしろい。「ああ、人間って何百年たっても変わらないんだな」という、あたりまえのことを気づかせてくれます。すばらしい原文自体は歴然としてありますので、現場の先生の授業のちよつとした工夫次第なのかもしれません。

◆幸田 「言語文化」とは別に、選択科目では「文学国語」という科目が新たに誕生します。この中では、ただ単に小説や詩歌を読むだけではなくて、創作活動も取り入れています。高校の国語の中で、創作をここまで正面から掲げたのは、恐らく初めてだと思います。高校生が小説をつくったり、詩をつくったりということをや、先生はどんなふうにお感じでしょうか。

◆小川 たぶん大人が想像する範囲をこえるものを彼らはつくるんですよ。機会さえ与えれば、大人たちも驚くし、本人も自分

語」という必修科目で、その上に「論理国語」「国語表現」という選択科目が積み上がっていきます。新しい学習指導要領は、このように大きく二つの系統に構造化されているのです。

自分で困難を切り開く

◆幸田 いろいろな困難が待ち受けている社会が目に見えている中で、これまで以上に正解を覚えていく教育ではなくて、自分で考えて、自分の言葉で表現して、自分で困難を切り開いていくという教育が求められます。思考力・判断力・表現力を鍛えていく方向に変わっていくこととしているんですね。国語でも、話し方や話し合いの仕方、方法論や考えるためのトレーニングの仕方などを教える、ベースになるような科目が必要ということで設置されたのが「現代の国語」です。

◆小川 私たちが子どもだった頃に比べると、パソコンとかスマホが生まれたときからある今の子どもたちは、案外文章をつくる作業を日常的にやらなくちゃいけないんですよね。そこで誤解が生じたりして問題になるわけですけれど。ですから、日本語

の中にこんなものが隠れていたのかと発見することになると思います。何かをつくることは、できた作品が鏡になって、そこに映っている自分を見るという体験になるはずですよ。思春期の子は誰でも、モヤモヤして正体がわからないものをどうにか外へいっただん出して、自分でもその正体と向き合いたいと望んでいますよね。スポーツで発散したり、絵を描いたり、音楽で表現したりというかたちで、その心のモヤモヤと付き合える人もいるんでしょうけれど、言葉で表現することでも十分できます。それを私は「アンネの日記」を読むことによって発見しました。やはり読書体験からスタートしているんです。言葉で自分を自由にできるんだということを読書によって学んで、恥ずかしいのですが、(一度も採用されませんでしたけれど)朝日新聞の短歌のコナーに投稿したりして……。私はここに生きているんだということを発信したかったんでしょうね。誰かに読んでもらえることが喜びだったんです。

◆幸田 やっぱり読者を得ないと書いたもの、表現は完結しないと思います。ですから今回の学習指導要領では書いていたら終わりの特徴や使い方をちゃんと勉強して、正しく道具として使いこなせないと、現代社会で生きていけないということなんですよ。哲学やノンフィクションなど一見、文学と離れた論理的な表現が求められる分野でも、結局は文学的な表現にもつながって

ではなくて、それを他者の目で評価してもらったり、感想をもらったというようなことを、必ず入れるようになってくるんです。クラスで何かを書かせたら、それを文集などにしてみんなで読み合うといいですね。先生が一人で一生懸命添削してコメントを一言書くよりも、多くの読者の目に触れて、いろいろな人からいろいろなことを言ってもらえる機会が得られると思います。創作の授業は特に、どうやって交流するかという手立てを考える必要があるのではないかと思うんです。

◆小川 批評することがまた勉強になりますね。創作のための日本語と、批評のための日本語は微妙に違います。他者の作品を読んで、それについて何かを言うためには、また違う日本語の能力を引っ張ってこないといけないので。

◆幸田 そのとおりです。今回改訂された学習指導要領では、一方で、古典から近現代までの文学をトータルに扱う「言語文化」という必修科目を置いて、その上に「文学国語」「古典探究」という、文学系の選択科目が積み上がっていきます。もう一方で、実社会や実用や論理を扱うのが「現代の国

くると思います。そういう能力を勉強した上でまた「こころ」を読めば、基礎的なものとして絶対に読解にも役立つと思います。

◆幸田 そうですね。「現代の国語」で学んだことが方法論として「言語文化」に生かせるし、「言語文化」で学んだ言葉の奥行きをもつて「現代の国語」を相対化することができるし、と相互に影響し合う関係にあると思うんですね。だから小川先生がおっしゃったように、相互に学んだことが生かされれば、今までよりも豊かな国語科の学びをつくっていくことにつながるのではないかなと思います。

◆小川 日本語は本当に奥深いと思います。もう使い古しているはずなんですけれど、秘密がまだまだ隠れていますよ。作家は、それをいつも探しているんです。同じ言葉でも日常生活で使うのと、小説のある場面で使うのでは、意味合いが全然違ってくる。でも、そもそも言葉は自然界にあるものではなくて、人間がコミュニケーションのためにお互い理解し合っているものなんです。本来論理的にできていないんです。小説も、なんとなく感覚とか



感受性とか、ばんやりしたものでつくられていて、と思われがちですが、実はものすごく緻密な計算をしています。たとえば百枚の小説で途中の二枚ぐらいの場面を書き換えると、結局全部変えないといけないくなります。編み物と一緒に、間違えた目だけを直せばいいというわけにはいかないんです。非常に筋道立てて構築されていると思います。

◆幸田 特に先生の作品は、本当に緻密に考えられていると思います。

◆小川 ただ、作品に考えた痕跡を残しちゃいけないんですけれどね。あくまでも自然に物語のほうから生まれ出てきたかのように見せかけるためには、じっくり考えて書かないといけない。スラスラ読める文章に書くためには、スラスラ書いちゃ駄目なんです。ですから実社会で要求される論理的な能力を国語で養うことは、言葉の勉強にとって重要だと思います。若いときは自分も持っている以上のものを見せたいという気持ちで書いてしまいがちです。でも、三〇年ぐらい書き続けていくと、見せかけのものから腐っていくとわかってきます。余計な飾りを付けない、シンプルな言

葉で実は心理が伝えられるんだと、書けば書くほどわかってきます。たとえば、今年八月に行方不明になった山口県の二歳の男の子が、発見されたときに「ぼく、ここ」って言ったそうですね。たった四文字のなんの飾りもない、日本語が生まれたときのまんまの言葉。でもそれが大変深い意味をもつ。これが文学だと思っただけです。

◆幸田 その言葉は発見者の方がおっしゃっていましたね。なぜあの「ぼく、ここ」という言葉に感動するのか、今、小川先生のお話でわかりました。奥深いですね。

◆小川 それを聞いて「あ、それが大事な声だ」ということを受け止める人がいたわけです。発する人がいて、受け取る人がいる。そこに文学が成り立っています。文学と実生活、やっぱりどちらも欠けてはいけないということですね。

◆幸田 そうですね。トータルな国語科ということを考えたときに、文学と実生活とが相互に影響を合っているんだということとを自覚しながら組み立てること。たとえば、高校であれば三年間の中でどんなふうか。そういう発想が大事になるんだらうと

思っています。

国語とは長長にお付き合いを

——最後に、高校生へのメッセージをお願いします。

◆小川 私の作品を教科書で読んでくれている高校生がいるんだと思うと、本当に幸せです。作家としてこんなにうれしいことはありません。「高校生のときに出会ったけれどわけがわからなかった」という体験でも、いつか「ああ、あのときさういえば」と感動を新たにすることが必ずあると思います。つまり、文学とは長い付き合いになります。教科書で出会った文学でも、そのとき、そのときの瞬間的な出会いではなくて、実は一生をとおして関わり続ける可能性があるので、あまり短気を起こさないでほしいと思います。

◆幸田 高校生には、「食わず嫌いをするな」と伝えたいですね。国語で学ぶことは小説、評論、漢文、古文などたくさんあります。もし苦手な授業があれば、教科書のほかのページを読んでみるとおもしろい発見があるかもしれないと思います。

——ありがとうございます。

論点を共有し互いの考えを生かす話し合い

たなかひろみ
田中洋美

桐山女子学園高等学校

■問題の所在

「現代の国語」の「話すこと・聞くこと」の配当時間は20〜30単位時間程度（同科目の約三〜四割に相当）と明示された。多様な他者と交流しながら次の時代を担うためには、実社会で必要な言葉の力を着実に身に付けることが不可欠だ。年間指導計画に適切に位置づけ、確実に実施しなくてはならない。

ところが新科目の説明を受けた現場では「何を話すのか」「どのように話させるのか」「評価はどのようにするのか」という声を聞く。今回の改訂の大きな狙いは授業改善だ。実はこの三点は改善を考える大きな手掛かりとなる。本稿では「学習指導要領解説」に基づき、授業改善のポイントを考えたい。

まず、注目したいのは話し合う「目的」だ。日常生活でもアイデアを集める、問題を解決する、互いの意見や関係を調整する、

結論を出す等その目的は多岐にわたる。加えて話す相手により、話し合いの在り方は異なる。今、「目的、種類、状況に応じて」(『話・聞(1)オ』)話し合いの仕方や結論の出し方の工夫を考えることが求められているのだ。また、話し合う過程そのものが学習過程である。どの過程に重点を置くかで「どのように話させるのか」の指導が変わってくる。目的と対象をはっきりと認識させることが、その場に適した表現を引き出す土台となる。

次に話題の選定と課題の設定について考える。『解説』によれば「現代の国語」は「実社会」から話題を探る。その話題を決める際、付きたい力を精選し、具体的な場面と明確な課題を設定したい。その能力がどのような場面で役立つかを生徒自身が認識できれば意欲も喚起でき、その後の汎用性も高まるからだ。例えば、情報の吟味(知

技(2)エ)や論点の共有、話し合いの工夫(『話・聞(1)オ』)を習得させるためには、高校生が地域社会の将来像を構想し、その実現に向けた取り組みを提案する場面が想定できる。では、次に実社会から話題を採り、話し合いの目的を明確にした事例を挙げよう。

■事例「論点を共有し互いの考えを生かす話し合い」

○単元の概要

新聞記事の話題に基づき、論点を共有しながら話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する学習である。課題は「メール世代の新人社員Aさんは会社の電話を取ることが『怖い』。そのため、仕事に支障をきたすなどの問題が生じている。ところが、実社会では電話が必要となる場面も多い。このような状況に対し、どのような対策が考えられるか。新人社員Aさんに具体的なアドバイスをしよう。なお、「Aさん」は本校の卒業生と設定した。教材は新聞記事(『中日新聞』(朝刊)2017.12.8)、統計資料(『2017年度コミュニケーション総合調査』、『宣伝会議』2018.3)、ワークシート、付箋である。

○関連する指導事項

・「現代の国語」話・聞(1)オ、知・技(1)イ

○主な評価規準

・論点を共有し、互いの考えを生かしながら話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。(話す能力・聞く能力)

○授業の展開(全3時間)

第1次(1・2時間目)

- ①目標と課題の提示
- ②新聞記事と統計資料を読み、問題点を分析し整理する話し合い(二人班)
- ③各自で考えた対策を「提案シート」(A3判白紙)に付箋で出し合う話し合い
- ④「提案シート」を他班に回し、助言や批評を得て、対策を三点に練り直す話し合い

第2次(3時間目)

- ①話し合いの成果を全体で共有
- ・各班の提案者は板書した要点を用い、「Aさん」役と対話する。
- ・「Aさん」役は順に担当。最も説得力がある助言を選び、その理由を述べる。実効力が乏しい場合は指摘する。
- ・その他の聴衆は「評価シート」(ルー

ブリック)を用い、評価する。

②ふりかえり(話し合いの仕方や結論の出し方についてどんな工夫ができたか)

○移行に向けた授業改善のポイント

- (1)論点を共有するため、司会が意見や論点の整理を行う(第1次)。また、話し合いの過程を視覚化するため、付箋に書いた各自のアイデアを「提案シート」に貼り付けて紹介する。今回は会社側への提案や新人社員への助言等が交錯して出される。そのため、その論拠と期待される効果、実現性を軸に整理する必要がある。付箋は分類だけでなく、各自の意見を尊重する効果もある。

(2)班での話し合いには①課題分析、②アイデアを出し合う話し合い、③他班の助言を受けて提案を整える話し合いの三段階がある。中心的な学習過程は③である。評価方法として記述の点検(『提案シート』)、行動の分析(録音録画の活用)、記述の分析(ふりかえり)、考査(新たに設定した場面や課題のもと、取り上げた指導事項の能力を扱う出題など)等が考えられる。

■今後の課題 ～評価の工夫～

評価については実用性(目標に照らし評価する場面を精選し、適切に記録する)と計画性(年間を通した評価計画)が課題だ。今後、生徒自身が話し合いの経過や考えの形成過程を確認する場面が重要になる。思考ツールや文字化資料、ルーブリックの活用等、新しい教科書で豊富なアイデアが示されることを期待する。

実用的な文章を「書く」

うちだひろふみ
内田浩文

岡山県立林野高等学校

■はじめに

「文学、教養の軽視だ」……そんな声が聞こえてくるかもしれない、今回の学習指導要領の「大改訂」である。特に、各領域における授業時間が「内容の取扱い」に明示されたことにより、現在多くの学校で「便宜上」区分けして実施されている、「国語総合」の「現代文」「古文」「漢文」といった授業展開は事実上不可能になった。そして、特に「現代の国語」の中で、実用的な文章をはじめとした「実社会」の存在が強く意識されるため、今までの「定番教材」がどう扱われていくのか、不安を感じる向きも少なくはないだろう。「羅生門」や『水の東西』すら読んだことがない高校生を、大量に世に送り出すのか？ というつぶやきもまた、聞こえてきそうである。

けれども、私たち国語科教員は、今まで自分たちが歩いてきた道を、ここで一度、

振り返らなければならないのではないのか。

今回、「(2)科目構成の改善」の中には、これまでの国語の授業では「話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」と指摘されている。そして、こうした指摘は、決して実感のないものではないだろう。「文化祭の出し物を決めるのに、皆黙りこんで、時間ばかりかかって……」と、若い担任が頭を抱えている姿は、そう珍しいものではない。また、最も時間をかけられてきたであろう「読むこと」に関わる内容も、教材を離れた様々な場面でも役立つ形で、それを身につけることができているかどうか。「設問が読めない」と問題は解けないよ」とは、同僚の数学教員の言葉である。

■実用的な文章を「書く」指導

「解説」の中には、情報を広く収集するた

第2時

①新聞の、「通知」の書式を整理する。

通知記事の「タイトル」は、どのような表現がなされているか、なぜそのような表現が用いられるのか。常体/敬体、簡体書/簡体書などの使用など。複数の記事を参照して確認する。

②実際に通知文を書く。

レイアウトを含めて、新聞記事の形で通知文を作成する。実用的な文章である以上、伝えたい内容を伝えたい相手に確実に届けることができる、ということは当然であるが、生徒会新聞の記事という形で示すことにも留意する。つまり、まず読み手の目を引くことが重要であるし、あまりにも直截

平成29年度試行調査より

【第1問の概要】ある高校の部活動に関する生徒会規約と、生徒会部活動委員会の執行部会の話し合いの様子（【会話文】）、および執行部会で参照された【資料①～③】を示し、条件付きの記述式問題に答えさせる設問です。

【生徒会部活動規約（抜粋）】

- 第3章 部の新設・休部・廃部
- 第12条 部の新設は、同好会として3年以上活動していることを条件とする。
- 第13条 条件を満たし、部として新設を希望する同好会は、当該年度の4月第2週までに、所定の様式に必要事項を記入し、生徒会部活動委員会に提出することとする。なお、提出期限に遅れた場合、部の新設は次年度以降とする。
- 第14条 部の新設には、生徒総会において出席者の過半数の賛成を必要とする。
- 第15条 部員数が5名未満であり、その活動も不活発な状態が1年以上続いたと認められる場合、生徒会部活動委員会において審議の上、休部とする。
- 第16条 休部の状態が2年以上続いた場合、生徒総会の議決を経た後、廃部とする。
- (以下略)

【会話文（抜粋）】

- 島崎 執行部会を始めましょう。今日の執行部会では、生徒会部活動委員会に提出する議題について検討します。(略)では、森さんから、提出したほうがよいと考える議題について説明をお願いします。
- 森 はい。では、【資料①】の中から、部活動委員会に関わりそうな議題を選ぶと、まず「ダンス部の設立」になりますね。
- 島崎 それは……、議題にならないのではないのでしょうか。
- 森 ええっ、なぜですか。
- 島崎 現在活動中の同好会は、「軽音楽同好会」だけだからです。「ダンス部」の設立希望があるのなら、規約どおりに進める必要があります。
- 森 ああ、そうでした。うっかりしていました。では、この件への回答になるように、来月発行の『青原高校新聞』の「生徒会から」のコーナーに、当該年度に部を新設するために必要な、申請時の条件と手続きを、分かりやすく載せておきます。
- (以下略)

問1 傍線部「当該年度に部を新設するために必要な、申請時の条件と手続き」とあるが、森さんが新聞に載せるべき条件と手続きはどのようなことか。50字以内で書け（句読点を含む）。

的な言い方になってしまおうと、読み手の手紙を害してしまい、かえってうまく伝わらないことがある、ということにも気付かせたい。

第3時

①通知文を評価するループリットクを作成する。相互評価の際の指標にするとともに、この単元の目標を再確認し、振り返りの手立

正答例 同好会として3年以上活動した上で、4月第2週までに所定の様式で生徒会部活動委員会に申請すること。(48字)

正答の条件

次の条件をすべて満たして解答している。

- ① 50字以内で書かれていること。
- ② 「同好会として3年以上活動」ということが書かれていること。
- ③ 「4月第2週までに申請する」ということが書かれていること。
- ④ 「所定の様式で申請する」ということ、「生徒会部活動委員会に申請する」ということのどちらかが書かれていること。なお、両方書かれていてもよい。

てにする。第2時の②の段階でループリットクを示しておくことも考えられるが、今回は再修正の場面を用意したので、リフレクションの役割を持たせるように位置づけてみた。

② 相互評価を行う。

印象批評に終わらないように、そのように評価した「根拠」を示す。

③ 相互評価の内容を踏まえて修正を加える。

活動の形態としては、個人ごとであってもグループでの取り組みであっても、どちらも設計はできると思う。相互評価の場面を考えると、第3時②まではグループで、③を個人の活動として取り組ませることがスムーズかもしれない。

■まとめにかえて

今回の「生徒会規約」のように、実用文の中には、様々な場面で必要とされる多様な情報が含まれているものがある。まして、フィールドワークで得られる資料には、価値の高低も含めて、雑多な情報が目の前に現れるだろう。このように、実社会の中で流通している膨大な情報の中から、今自分

が必要とするものは何かを判断し、それを適切な形でピックアップしていくこと(情報の妥当性や信頼性を検証すること)が、「現代の国語」で求められている力の一つであるならば、テキストの中のどこに何が書いてあるのかを大きく掴む、という、「情報を俯瞰する能力」がまず求められるのではないか。「大学入学共通テスト」でも、「問いたい『思考力・判断力・表現力』』として「テキストに書かれていること(構造や内容)」を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それに基づき考えを形成することができると示されている。

冒頭に述べたような、今回の「大改訂」に対する批判や不安は、その理解が進むにつれて顕在化しそである。けれども、激変していく社会の中で、文学教育を中心とした今まで通りの「国語科の授業」だけが「不易」でいられるはずはないのである。「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力」を育成する、という国語科の原点にこそ、私たちは立ち返らなければならぬのではないか。

古典と現代をつなぐ

かずまだいすけ
數馬大介

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

古典の授業をどのように進めていくかは、国語科の教員にとっては毎回頭を悩ませている問題ではないでしょうか。本校の生徒たちの多くは、「古典」と聞いただけで苦手意識をもってしまい、苦手だから勉強は後回しという傾向になりがちです。

本校は東海大学の付属校で、多くの生徒が東海大学へ進学します。大学受験がないため、受験をする他の学校の生徒さんと比べると、古典文法などの定着率、理解度がどうしても低くなっています。また、進路内定後に気が緩みがちで、古典の授業に取り組むモチベーションが低くなってしまうということがあります。

この現状を打開するにはどうしたよいか。考えた結果に思い当たったのが、内容の面白い作品を読み、古典の面白さを知ってもらおう、ということでした。

そもそも、古典作品は読んで面白いもの

がたくさんあります。しかし、文法であったり古文単語であったり、作品を読むうえで覚えること(覚えてほしいこと)が多く、また私たち教員も、それらの知識を一生懸命伝えようとする結果、古典自体の面白さを半減させてしまっていないでしょうか。

そこで、私たちは付属校のメリットを活かして、オリジナルのテキストを作り、古典の授業を変えていこうと考えました。

授業の対象は高校三年生です。教材は「読んで、内容が面白い作品」を選びました。高校三年生が読む文章としては、平易なものがありますが、そこは目をつぶりました。

高校生は学校生活を通じて、いろいろな思いや考えをもっています。古典作品が面白くないと思われるのは、彼らの生活と重なるところが少ない(と思っている)からではないかと考えました。そこで、古典作品と現代を結びつけることを意識してテキスト

トを作成しました。

古典作品にも、現代の私たちに生きるヒントを与えてくれるものが多々あります。古典作品を読むにあたり、テーマを設定し、今を生きる高校生とつなげることで、古典を身近なものにするという狙いをもって、テキストを作りました。

テキストには「○○譚」という名前をつけ、テーマをもとに古文・漢文を選びました。今までに作ったテキストは、「滑稽譚」、「怪奇譚」、「英雄譚」、「親子譚」、「恋愛譚」などがあります。古文では「伊曾保物語」、「平家物語」、「耳囊」、「大和物語」、「伊勢物語」、「百人一首、漢文では『史記』や『搜神記』、『蒙求』など、扱う作品はさまざまです。今までに教科書に掲載されていたものや、問題集で見つけた、内容が面白い作品を中心に集めました。

授業の単位数も少ないために、一つ一つの作品をじっくりと読み解くというよりは、スピーディーにできるだけ多くの作品を読むように心がけました。また、古文・漢文に加え、そのテーマに関する文章や、教員が執筆したコラムなども織り込んでい



ます。

テキストは、まず本文を載せて、古典の知識(難読語や古文単語、文法など)を入れます。現代語訳は「ざっくり現代語訳簡単に文章を理解する」をまず行い、そこから「しっかりと現代語訳」に向かいます。原文を読んでもわからない生徒もいるため、本文の下に○×クイズを作り、それに正解すればざっくりした内容がわかるようにしました。大学受験で必要な知識や文法などもテキストに盛り込んでありますが、授業ではあまり重点を置いて話をしません。それよりは内容の把握を、またその話のテーマについて考える時間を増やしています。

私の授業では、音読をたくさん行います。古典の文章を正確に音読できるということは、作品をある程度理解できている証拠になります。逆に音読がしっかりとできない子供たちは、作品の内容があまり理解できていないという傾向にあります。

全員を起立させて、私が先に読み、生徒が後に続いて全体で読む形式、二人一組になって、最初の人が本文を読み、もう一人が現代語訳を読む形式など、いろいろな形

で音読を繰り返しています。

できるだけ音読の回数を増やすために、テキストのいちばん後ろに音読回数チェックリスト(1~50までの数字)を作っています。授業中、原文でも現代語訳でも、通して読んだら○をつけ、自宅で学習する場合も、読んだら忘れずに○をつけてねと話をしています。そして試験前には、最低20回分の○がついているのが目標です。

最初音読ができていない生徒たちも、何度も繰り返ししているうちにできるようにな

「(一)あなたが憶れる人物は誰ですか?」と挙げてください。またその人物のどんなところに憶れますか?

あなたが憶れる人物!!

憶れポイント

「(二)憶れたことで、その人から影響を受けたことはありますか? あるとすれば、どんな影響を受けましたか?」

「(三)挿話、他の誰かがあなたに憶れらるでしょう。そうなるために、誰から憶れられる人物になるためには、あなたは何をすべきだと思いますか?」

今までに憶れたことのある人物を思い出して、書き出してみよう。

あなたの子供で、誰かアニメ・ドラマの中の人物でも構わない。

「コラム」憶れたべつトル

子供の頃に憶れたものを覚えていいますか? 私は忍者に憶れていました。映画やアニメの中で見た忍者は、憶れた身体能力で、忍具、忍術を駆使して敵。その姿がとても男らしく、カッコよく見えました。私も忍者になりたいと思います。早く走る

『英雄譚』より、現代につなぐ設問



オリジナルテキスト表紙

道長と伊周―弓争ひ―

帥殿の、南院にて、人々集めて弓あそびしに、この殿渡らせ給へれば、思ひかけ判あやしと、中の間白殿おぼへ驚きて、いみじう義忠し申させ給うて、下殿におはしませと、前に立て奉りて、まづ射させ奉らせ給ひけるに、帥殿の矢数いま一つ劣り給ひぬ。中の間白殿、また御前に候ふ人々も、「いま二度延べさせ給へ」と申し、延べさせ給ひけるを、やすから判おぼしなりて、「さらば、延べさせ給へ」と仰せられて、また射させ給ふとて、仰せらるるやう、「道長が家より帝・后立ち給ふべきものならば、この矢当たれ」と仰せらるるに、同じものを中心には当たるものかは。

【ざっくり現代語訳】

【内容補足○×クイズ】

Q1 南院が、河を隔てて建ち、いたれば、御高懸原道長がやつてきた。 ()

Q2 中園四郎は怪しいと思ったので、道長を斬くもてなして、斬らせた。 ()

Q3 道長は身分が低かったがテキストだったので、先行として射させてもらった。 ()

Q4 帥殿の矢が本場です。誰が射たか? ()

Q5 道長は、自身の野望を遂げて矢を放った。 ()

Q6 道長の放った矢は中心に当たらなかった。 ()

【重要単語(意味)】

あそびす: 音楽、舞踏などをなされる。渡る: 行く、来る、通り過ぎる。給ふ: (尊) 下さる。あやし: (口) 不思議だ。②身分が低い。おぼす: お思いになる。

オリジナルテキスト『英雄譚』より、本文と○×クイズ

つてきます。回数を重ねたときには、「今日は一分以内に読んでみよう」などと時間制限を設定し、徐々に読むスピードを上げていきます。繰り返し行うことで次第に本文が読めるようになり、また現代語訳も理解できるようになってきます。

授業を通しての生徒たちの反応は上々です。感想を読んでも、「意外と古典が面白い」ということに気づいた。「大学へ行っても機会があれば読んでみたい」という感想が出てきました。中には、初心者向けの

古典作品の入門書を購入し、実際に読んでみたという生徒もいました。

今回ご紹介した授業の仕方は、受験を気にせずに行える付属高の三年生に向けた取り組みです。しかし、「古典作品と現代を結びつけること」「文法に深入りせず、内容の面白さを味わわせること」などは、新科目「言語文化」の趣旨にも合致するのではないのでしょうか。参考になるころがあれば幸いです。

読み比べで深める「言語文化」

さとう えみ
佐藤 惠美

茨城県立日立第二高等学校

■ポイント「読み比べ」

次期学習指導要領で、「現代の国語」と並び、必修科目となる「言語文化」。内容を見ると、これまでのように教材をただ読解するだけでなく、近代以降の文章を読んだり、さらに読み比べる言語活動を行ったりするなど、大きく授業を変える必要があることを実感する。

教材研究に費やせる時間も限られているため、効率的に次期学習指導要領に対応したい。そこで、これまでの授業実践を振り返り、そこに「読み比べ」を取り入れりメイクすることで、従前の実践の反省を生かした新たな授業を再構築しようと考えた。

■菊池寛「形」と芥川龍之介「鼻」

〈従前の実践 菊池寛「形」〉を書き換える活動を通して、新兵衛が命を落とした理由を考え

▼菊池寛「形」

中村新兵衛が自らの「形」である猩々^{しやうじやう}の羽織と唐冠^{たうかん}の兜を「若い士」に貸してしまふ。「若い士」は新兵衛の「形」を借りて、戦場にて初陣を飾る。

しかし、いつもの「形」を失った新兵衛は、立ち向かってくる敵の様子が違うことに気付く。羽織や兜を貸したことの後悔が頭をかすめたのも束の間、敵の槍が新兵衛の脾腹^{ひはら}を突いた。

まず、敵が新兵衛の「形」を恐れていること、新兵衛自身も、自らの「形」の力を借りて戦で活躍していたことなどを中心に、内容を読み取った。

次に、新兵衛が戦場で命を落とさずに済むには、本文中のどこを書き換えればよいか、考えた（ただし、羽織や兜を貸したことなどの設定は変えずに）。「氣を引き締め」「油断せず」等の新兵衛の心情を、各場

面で書き加える生徒が多かった。

初読では、新兵衛が戦死した理由を「羽織や兜を貸したから」とする生徒が多かったが、活動後は新兵衛の心情面に注目して考えることができた。しかし、心情面からのアプローチだけでなく、「若い士」や敵の目線から新兵衛の「形」がどのように見えるのかを考えさせると、さらに読み込みの深まりや広がりも期待できたと思う。

〈今後の実践案 芥川龍之介「鼻」と読み比べ、共通点や相違点、外見Ⅱ「形」が他人に与える印象などをペアやグループ学習の形態で論じ合う。〉

『鼻』の内供は、長すぎる自分の鼻にコンプレックスを抱き、他者からの評価を気にしていた。これに対して『形』の新兵衛は、自らの羽織や兜の持つ戦場での威力を誇らしく感じており、そのことが過信につながってしまった。敵が、新兵衛の「形」をどのように見ていたのか、また、「若い士」がどのように評価していたのか。『鼻』の内供が、弟子の僧たちにどのように見られていたのか。比較しながら読み進めてみるとおもしろいのではないかと考えている。

■森鷗外「高瀬舟」と志賀直哉「范の犯罪」

〈従前の実践 高瀬舟〉の話し合い活動を通して、喜助が有罪である理由を考え

不治の病に冒された弟は、働き続ける兄の喜助に苦勞をかけまいと自殺を試みた。死にきれないでいる弟の刺刀を抜いた喜助は殺人を犯したと言えるのだろうか。

初読の感想では、喜助の行いが罪であるということに疑問を抱く生徒が多い。有罪派と無罪派にグループ分けをし、四人一組で話し合い活動をして、喜助が罪に問われた論点を整理した。弟の喉に刺さった刺刀を抜いたことで命を落としたのだと解釈すれば、喜助は人殺しとなってしまう。しかし、仮に医者を呼んで傷を処置したところで、弟が病や死から逃れることはできない。その苦しみから救ったことが罪に値するのかが、という点が論点となった。反省としては、事件に至る経緯や背景、喜助の「足ることを知る」生き方を読み取ることもつながるような発問をすべきであった。

〈今後の実践案 志賀直哉「范の犯罪」と読み比べ、有罪／無罪とする根拠や事件に至る経緯について考える。〉

▼志賀直哉「范の犯罪」

奇術師范の投げたナイフが、二間離れたところに立つ妻の体に沿うように刺さるといふ曲芸で、范のナイフが妻の首に刺さり、妻が死んでしまうという事件が起きた。一見何も問題のなかった夫婦であったが、実は二人きりになるとお互いに激しく残酷に責め合うほどの悪い関係であった。演技中に起きた事件は故意なのか過失なのかが争点となる裁判で、裁判長の下した判決は「無罪」であった。

『高瀬舟』の喜助も『范の犯罪』の范も、本人にはつきりとした罪の自覚がない。しかし、動機という点を比較すると、范は明らかに妻に悪意を抱いていた。また、それぞれの登場人物が抱えていた事情にも相違点がある。これらを読み比べ、生徒自身が裁判官になって、有罪か無罪かの根拠を探るといふ活動を実践したい。ワークシートと比較すべき点をいくつか提示し、事件に至る経緯を比較させていくことで、喜助が有罪になった理由を考えるだけでなく、これまで喜助が背負ってきた背景なども考慮しながら、深めていけるのではないか。

■読み比べの「種」

現在、他にも読み比べ活動で使用したい候補作品がある。

例えば、菊池寛の『入れ札』である。誰も抱くライバルへの嫉妬と、その嫉妬心ゆえに欲望に負けて画策を練って実行する男の心の弱さを描いている。夏目漱石の『こころ』の「私」がKを出し抜いた場面との読み比べができないか、模索したい。

また、志賀直哉の『襖』という作品。旅館に泊まる二つの家族が「襖」一枚で仕切られている。ある夜、誰かがその襖を開ける。誰が何の目的で開けたのかが問題になる。「襖」を開ける場面は、夏目漱石の『こころ』にも登場する。誰がどのような目的で「襖」を開けたのか、作品中にどのような効果を生み出しているのか、比較させてみたい。

未実施の授業構想ばかりであるが、次期学習指導要領への対応を機会とし、自らの授業を見直してリニューアルしていきたいと考えている。

なぜ「古典文法」を学ぶのか

おおくら ひろし
大倉浩
筑波大学教授

「物知り」先生でなく「訳知り」先生になろう
私は大学で「日本語史」を担当しています。教職科目でもあるので、受講生には国語教師を目指す学生も多いのですが、「古典文法が好きだ、面白い」という学生は一〜二割ほど。多くは古典作品の内容や登場人物、時代、作者に興味を持つ学生です。

これは健全？なこともかもしれませんが、古典文法好きの私としては、古典の言葉そのものの面白さに、もっと気づいてほしいのです。そして、動詞・助動詞の意味や活用をたくさん覚えている「物知り」ではなく（記憶力では、若い生徒たち、AIには勝てませんが）、「古語の動詞には一段活用、二段活用、四段活用があるのに、なぜ三段活用はないのか？」「過去完了や推量の助動詞がたくさんあるのはどうして？」などの疑問にも答えられる、「訳知り」の先生になって、

生徒の日本語そのものへの関心を高めてほしいのです。このコーナーも、そのきっかけになればと思っ
書いていきます。
では今回は私のほうから皆さんに逆に質問です。

質問
そもそも「古典文法」を学ぶのは何のため？

らでしよう。
質問に戻って考えると、「古典文法」とは、古典の文章を正しく読解するための手段・方法（ツール）です。「古典文法」を学んで、古文を正しく品詞分解して単語を切り出し、わからない単語は古語辞典を引いて意味を確かめ、現代語に訳して読解していくのが、古典の勉強の基本です。つまり、「古典文法」は品詞分解のための手段であって、勉強の目的はあくまでも古典作品の読解のほうです。

昭和の終わり頃までは、古典作品の現代語訳は十分に整備されていませんでしたから、生徒たちは教室で先生に指導してもらいながら、自力で古文を品詞分解し、辞書を引き、読解していくしかありませんでした。大学も、受験生がこうした読解の手段をちゃんと身につけているかどうか、入試問題で試していたわけです。しかし、平成も終わろうとしている現在、主な古典作品の現代語訳は書籍でもネットでも容易に入手でき、さらに漫画化され映像化されたものも数多く存在します。古典の専門家が丁寧に訳した現代語訳を読めば、初心者が時間をかけて苦労して訳さなくても、すぐに作品の読解にとりかかれるのですから効率的です。美味しい焼きたてのパンが手軽に買えるのなら、

自分でわざわざ小麦粉をこねてパン作りをする人は少なくなるのと同じです。

では、古典の教科書は全て現代語訳付きにして、「古典文法」の学習は、やめてしまってもよいでしょうか。（そうになったら楽しそうだと思う方もいるでしょうが）残念ながら現代語訳のできない古典があるのです。和歌や俳諧、歌謡などの韻文です。これらは音の響きや韻律が、内容と同じくらい重要な要素ですから、専門家でも現代語に完璧に翻訳はできません。ちょうどビートルズの曲やアナ雪の歌が、原語で聞いたり歌ったりしないとじっくりしないと聞いたり歌ったり「古典文法」を学んで、原文を自ら読まないと読解しきれないのです。御存じのように、『伊勢物語』や『源氏物語』にも多くの和歌があって、和歌をふまえた表現も多く見られます。「古典文法」が、読解にはまだまだ必要なのです。

「古典文法」について、ちょっと「訳知り」になつたでしょうか。授業でも、全文訳にこだわらず、和歌や敬語表現など訳しにくい部分でも、「古典文法」によって理解に近づけることを、生徒さんたちに気づかせることから始めてみてはどうでしょうか。



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/webkoku/>

『竹取物語』の過去・

現在・未来

東望歩あずまのみほ

金城学院大学准教授

■『竹取物語』の主人公は？

「『竹取物語』の主人公は誰ですか」と聞き、「かぐや姫」と答える。ごく当たり前の発問と答えのようだが、それは確かなのだろうか。

もちろん、『竹取物語』が、竹の中に発見され、月へ帰っていかぐや姫を中心に展開していく物語であることは疑いようもない。しかし、『竹取物語』という作品名は、「竹取の翁」に由来するものである。

まづ、物語の出で来はじめの親なる竹取の翁たけちのおきなに宇津保うづほの俊蔭としかげを合はせて争ふ。
(絵合巻)

「物語の出で来はじめの親」の一節で知られる『源氏物語』絵合巻の場面である。斎宮女御（故六条御息所の娘）を擁

する光源氏方と弘徽殿女御を擁する権中納言（故葵上の兄弟、「頭中将」の名で知られる）方による「絵合」が行われた際、最初に出されたのが、『竹取の翁』こと『竹取物語』の物語絵であった。この場面からは、当時、『竹取物語』が「竹取の翁」と呼ばれていたことがわかる。

「竹取の翁」は、『竹取物語』のみに登場する固有の名ではなく、『万葉集』卷十六・三七九一―三八〇二に収められた竹取の翁と九人の神女の贈答歌にも見ることができ。贈答歌からは、当時、異界の女と出会う「竹取の翁」の物語」が成立しうる素地があったことを推測できる。地上に現れる異界のものではなく、異界のものと出会う地上の男を主人公とするのは、それほど特異な発想ではない。加

えて、『落窪物語』、『源氏物語』、『狭衣物語』など、主人公の呼称を作品名とする物語は多い。これらのことを考え合わせれば、『竹取物語』の主人公は、本来「竹取の翁」だったのではないかとさえそうである。

しかし、『源氏物語』には『竹取物語』に直接言及している場面がもう一つあり、そこでは「かぐや姫の物語」と呼ばれている。作品名自体が揺れているのである。

古ふるりにたる御厨子みづしあけて、唐守からもり、藐姑射はこやの刀自とじ、かぐや姫の物語の絵に描きたるをぞ時々ときのまさぐりものに
したまふ。
(蓬生巻)

『源氏物語』に登場する作品名から考えるのではなく、当時の本そのもので「もともと」の作品名を確認すればいいのではないかと考える学生もいる。平安時代に作られた『竹取物語』の本は現在残っておらず、一番古いものでも室町時代の終わり頃に書き写されたものであることを教えると、「平安時代の物語が残っている」平安時代の本が残っている」ではないことを意外に思うようである。

『源氏物語』、『枕草子』も、鎌倉時代のもものが一番古く、紫式部や清少納言が書いたり読んだりした本そのものはない、という話から、新資料発見のニュースや鑑定バラエティ番組、古書ミステリー作品などを引き合いに出しながら古典籍について語ることもある。「お宝発見」はいくつに

なってもわくわくする話題のようで、興味を持って耳を傾け、時に周囲と話したりする様子も見受けられる。

江戸時代半ば頃から行方がわからなくなっていた『おくのほそ道』草稿本が近年再発見されたことを紹介した際には、貼紙で訂正された推敲の跡を画像で見せた。「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり」の名文が生まれた瞬間を目の当たりにして「『おくのほそ道』ってほんとに人が書いたものなんです」という感想を述べた学生は、書物の姿を通して、古典作品もまた、現代の作品や自身が書く文章と同様に、誰かが悩みながら、模索しながら表現したものなんだ、と感じたようであった。

『竹取物語』の場合は、天理本（二五九二年書写）が長らく最古の完本であったが、一九九六年、里村紹巴自筆本（二五七〇年書写）が新たに発見された。また南北朝時代の書写と目される伝後光厳院筆小六半切『竹取物語』の新出断簡発見が近年複数報告されており、さらなる発見で当該写本の全体像が明らかになる可能性もある。もつと古い時代の写本がある日突然発見される夢も捨てがたい。

教科書に載るような作品でも、わからないことはたくさんある。当たり前にわかっていると思うことでも、考えることは多い。そして、千年前の物語であっても、新たに何がわかる可能性はまだまだ残されている。

■「現存最古の物語」が示すもの

『竹取物語』をめぐるさまざまな「わからない」について話すことで、結局、何が正しいのか、何を覚えればいいのか、と困惑させてしまうこともある。それでも「わからない」ことをめぐって語り、「わからない」ことについて考えてもらう時間を作るのは、古典は当たり前に残るものではなく、さまざまな不確かさを乗り越えて、私たちのものに届けられたものだ、と感じてほしいからである。そして、古典は昔のものではあるけれど、今も続く営みによって支えられているもので、それを「未来で待ってる」（映画『時をかける少女』より）人たちに届けられるかどうかは私たち次第だ、ということをお伝えしたのである。

「現存最古の物語」という文学史上の位置づけを持つ『竹取物語』は、そうした古典のあり方を伝えるにふさわしいものだろう。先に引いた『源氏物語』蓬生巻で、『かぐや姫の物語』とともに取り上げられる『唐守』、『窈窕射の刀自』は散逸物語、今はもう失われてしまった物語である。『唐守』は、『伊勢集』、『うつほ物語』にも引かれる初期物語だが、『源氏物語』以降には確認できない。また、『窈窕射の刀自』は、『実隆公記』延徳三年（一四九一）二月九日に書写記事があり、この頃までは残っていたようだが、以後の記録はない。鎌倉時代の物語和歌集『風葉和歌集』

に収載された一首の和歌（九七七）とその詞書が、わずかに物語内容を伝えている。

照満姫取り返され給ひてよませ給ける
はこやのとじの太玉のみかどの御歌

いへどいへどいふに心は慰まず恋しくのみもなりまさ
るかな

『風葉和歌集』は、物語歌を集めて勅撰集風に編纂した珍しい歌集で、二〇〇編以上の物語から千四百余首の和歌が収められている。物語歌を集める、というスタイルがピンとこない人は、アーティスト名義ではなくドラマやアニメの登場人物による名義での歌を集めたもの、いろいろな作品に出てくる名台詞や決め台詞を集めたもの、をイメージしてもらいたいかもしれない。

二〇〇編以上の物語のうち、現存する物語は、『竹取物語』を含め一割程度に過ぎない。何十首もの和歌が『風葉和歌集』に採られているような、当時人気を博したのであろう物語であっても、もはや読むことはできなくなってしまう。『夜の寝覚』や『風につれなき』のように、結末や後半がわからなくなってしまう物語もある。

消えていってしまった数多の物語の中から、私たちに残ろうじて残されたものの一つが『竹取物語』という「現存最古の物語」なのである。

■『竹取物語』と絵の関係

『源氏物語』絵合巻、蓬生巻のどちらにおいても、絵画化した『竹取物語』が享受されている。

「物語絵こそ心ばへ見えて見どころあるものなれ」（絵合巻）と語られるように、物語絵とは、物語の内容や趣意をいかに絵として表現するか、絵から物語をいかに読み解いていくのかを楽しむメディアであった。

『枕草子』において、宮仕えを始めたばかりで萎縮する清少納言のために、中宮定子が絵を広げ、「さし出させたまへる御手」で画中を指し示しながら「これはとあり、かかり。それか、かれか」などと語ってみせる場面（宮に始めてまゐりたるころ）は、当時、物語絵がどのように楽しまれていたか、その一端を伝えるものだろう。

また、『枕草子』では、「絵にかきおとりするもの」として「物語にめでたしといひたる男女のかたち」が挙げられている。現代でも映像化や実写化で物語を醸すことはたびたびあり、ことばのイメージからそれぞれが脳裏に描き出す「理想の美」を具現化することの難しさは、今も昔も変わらないようである。

国語教科書に掲載される視覚資料は質量ともに充実の傾向にあり、『竹取物語』の場合も、作品本文に画像が添えられていることが多い。古典文化における物語と絵の関係

に注目し、理解を深めることは、こうした視覚資料を活用する方法の一つである。教科書に掲載されている資料だけでなく、近年WEB公開が進む貴重書の画像なども、ぜひ有効に活用してほしい。国立国会図書館デジタルコレクションや各機関のデータベースなどで一般に閲覧可能である。視覚資料と本文との比較検討を行うことももちろん有効だろう。例えば、しばしば指摘されるのが、昇天の場面における「飛ぶ車」の扱いである。これを車ではなく輿として描いている絵巻・絵本は多い。「飛ぶ車」に乗って昇天するはずが、近現代の日本画や挿絵では、羽衣をまとったかぐや姫が空を飛んでいることもある。

本文の表現を精読する重要性、車と輿の違いなどのいわゆる古典常識、『竹取物語』における羽衣の独自性など、これらの資料を手がかりに教えられることは多い。

また、絵画化作品に対して注意が払われる要素（解釈の正しさ、時代考証の確かさなど）、文章表現を視覚表現に置き換える時に行われる変更の程度や意図、といった現代のメディアミックスなどにもつながる問題意識から、本文と絵画表現のずれを取り上げたりすることもできる。

物語を絵から捉え直したり、言語と視覚表現の関係を考えたたりすることで、古典の新たな面白さや古典文化と現代のつながりを見出すことができるのではないだろうか。

合唱コンクールの 課題曲を分析し、 物語を創作する

▼教材

「時の旅人」

深田じゅんこ 作詞

橋本祥路 作曲

麗澤中学・高等学校
あきもとしんじ
秋元誠道

実社会・実生活に生きて働く力の育成が求められる国語。学校行事などとの連携も今後ますます重要になってくるでしょう。今回は、合唱コンクールの課題曲を分析する活動を紹介します。歌詞の分析を通して、生徒たちは課題曲とどのように向き合ったのでしょうか。

授業実施の背景

授業での学びと生徒の学校生活をどのようにしたら結び付けることができるか。私はこの問いを持って二〇一七年度に早稲田大学大学院教育学研究科で研究実習を行いました。この実習では、世田谷区の公立中学校で教科「日本語」を二か月にわたって担当させていただきました。この教科「日本語」は、世田谷区が独自に設定している特設の教科です。授業では、学校行事の合唱コンクールにおいて、中学二年生の課題曲となっている「時の旅人」の歌詞の分析と物語の創作を行

おいて時間がどのように移り変わっていくかを議論しました。歌詞の構造と時間の移り変わりについては、生徒に配布された楽譜と先行研究を参考にしましたが、あくまでも生徒たちの議論の結果を重視しました。授業の進め方としては、個人で思考してワークシートに記入し、グループで共有した後、クラス全体で議論するという形式をとりました。

クラス全体での議論の際に、生徒から出た意見はなんでも良しとしたわけではありませんが、根拠と論理性がしっかりしていたものはクラスで受け入れられていきました。その結果、「時の旅人」の詩は現在、過去、未来、現在の順で移り変わっているという結論に達しました。

歌詞の構造の議論の後、内容について授業で扱いました。その際の問いは、歌詞にでてくる「君」は、主人公である「ぼく」とどのような関係にあるか、ということとです。この問いに対して生徒からは、「友達」、「いとこ」、「親」など、さまざまな意見が出てきました。この時点で歌詞の分析の一時間目の授業が終了しました。授業後の振り返りには「人によっていろいろな意見があり、おもしろい。」などといったコメントが多くみられました。ただ、授業者としては、生徒の意見の中に、文脈の中での妥当性や論理性に欠けるものが見られたので、反省点として次回の授業への課題としました。

歌詞の分析の二回目の授業は、前回の授業の反省から、他

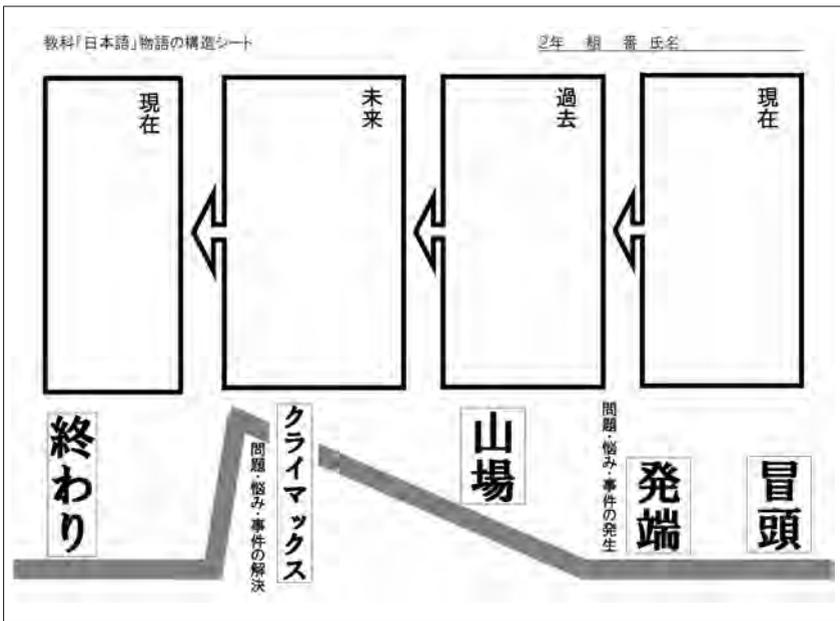
いました。生徒たちの関心事である合唱コンクールの課題曲の歌詞を深く読み込み、生徒一人ひとりと結び付けることで、授業と行事の双方に良い影響があることを期待して、この単元を計画しました。研究実習、世田谷区の特設科目、教科書にない教材と、日常の授業とは異なることばかりですが、何かの参考になればと思います、ここにご報告いたします。

歌詞の分析（二時間扱い）

この授業では主に、「時の旅人」の構成に注目し、各連の歌詞にみられる「君」の解釈を導入として入れました。このことを踏まえ、あらためて、「時の旅人」の歌詞を分析すると、生徒は周囲を納得させられるような説得力のある意見が言えるようになりました。この授業の後半では、歌詞と自分の経験を結び付けて考えられるというを行いました。具体的には歌詞に出てくる「汗をぬぐってあるいた道 野原で見つけた小さな花」の一節を取り上げ、過去に苦労した経験やうれしかった経験はあるか個人で考え、その後グループで見を共有しました。

この二回の授業を振り返って、生徒からは次のようなコメントがありました。

- ・私は「君」を友だちだと思ったけれど、Aさんから「君」は自分だと言う意見が出てよいと思った。
- ・自分の好きな歌手の歌詞によく「君」が使われているので、その意味を考えてみたいと思った。
- ・自分たちの歌う曲をここまで分析するのはすごいなと思った。その分もっと気持ちを込めて歌いたい。
- ・自分の経験を重ね合わせることで歌うときに感情移入しやすくなると思う。
- ・「時の旅人」に自分のことを当てはめて考えるのはとても難しいと思いました。



ワークシート：物語の構造シート（筆者作成）

・「時の旅人」の歌詞がこんなに深い意味を持っているとは思っていませんでした。
 ・自分について考える授業なので、自分ってなんだろう？と思うことが増えました。

その他、「歌詞の分析は難しい」という意見もありましたが、難しいと思うほど生徒たちは思考をめぐらせ、悩みながらも合唱の課題曲に向き合う様子が見られました。

■物語の創作（二時間扱い）

単元前半の歌詞の分析後、後半の授業として二時間を使い、生徒たちなりの「時の旅人」物語を創作してもらいました。この授業の目的は、歌詞の構造と意味を深く理解することと、歌詞の内容と自分を引き付けることです。創作文を書かせるにあたって、生徒たちには、作文の補助として「現在」「過去」「未来」「現在」と順番に物語を埋めていくワークシートを配布しました（次ページ参照）。

また、三森ゆりか氏の提唱する「言語技術」における「物語の構造」を参考にし、創作文中に事件や問題の起点となる「発端」と、事件や問題が解決する「クライマックス」を入れて、作文に物語性を出すように指導しました。そして、授業者が実際に書いた物語を二例紹介しました。授業の進め方

としては、一時間目を個人での構想とグループによる練り上げに使い、二時間目を書くこと、見直しに費やしました。

生徒たちは、ワークシートとグループワークによって課題曲と自分を引き付けた物語を構成することができていました。生徒の書くスピードには違いがあるため、時間内に早く書き上げる生徒もいました。早く書き終わった生徒は二人以上で集まって、読み合いをし、付箋でよかった点や改善点を指摘して、作文の練り上げをするように指導しました。

時間内に書き上げることを目指して時間配分するように伝えましたが、多くの生徒から自宅に持ち帰って書き上げたいという申し出があったので認めました。生徒が提出した作文の文章量としては、多く書く生徒でA4サイズの用紙三枚以上、作文を苦手とする生徒でもA4用紙の半分は書いていましたが、全体的には一枚程度の作文が多くみられました。生徒の作文は、分量や内容の質はさまざまでしたが、部活や合唱コンクールの運営など、書き手が抱えている悩みや問題、大切にしていることが盛り込まれていました。

■評価について

この実践では、次のような点で評価を出すことができます。まず、歌詞の分析においては、ワークシートの点検とグループワークの観察による評価です。歌詞には読み方の正解があ

るわけではありませんが、自分の意見に対し、根拠を示して論理的に説明するという点では評価が可能になってきます。そして、物語の創作の授業については、構想のワークシートと、出来上がった作品の評価です。歌詞の分析の際に確認した構造や時間の流れを守っているか、物語性を出すためのポイントは入れられているかといった点を確認することができます。

■授業を振り返って

今回の実践は合唱コンクールと授業の両方に効果があったように思います。生徒の授業後のコメントに「歌詞についての理解が深まり歌い方が変わった」、「合唱へのモチベーションが上がった」、など、合唱コンクールへの影響を示すものが多数見られたからです。そして、教科「日本語」の授業においても、扱う題材を生徒たちの関心事である合唱コンクールに設定することで、生徒たちは主体的に学んでくれました。また、この単元の中で、各クラスの担任や音楽科の教員との対話が生まれたことも、生徒の学びを考える上で、私にとって有益なことでした。

普段は、教科書などがあるため、生徒の学校生活や関心事を中心とした授業を展開するのは難しいのですが、補助資料や言葉かけによって、生徒の主体性を引き出し、深い学びにつなげていけるのではないかと思います。

「芸術」が生まれるとき——『夢十夜』第六夜

いしはらちあき
石原千秋
早稲田大学教授

漱石のアイデンティティ

『夢十夜』が実際に漱石が見た夢を書いたものか、純然たる創作かどうかにかかわらず、この連作にはほかならぬ漱石のアイデンティティのあり方がよく現れている。それは、『夢十夜』の時間と空間に関する構造に現れているのである。

よく知られているように、アイデンティティは二つの性質によって成り立っている。一つは、自身自身によって自分が自分であると確信できていること。これは、かつてともいまま自分は自分であり続けているという時間的な性質によって支えられている。少し前の言葉を使うなら、実存的自己と言っている。もう一つは、他人によって自分が自分であると認識されていると確信できていること。これは、Aさんに対する自分もBさんに対する自分も、あるいは、ここにいる自分もあそこにいる自分もやはり自分であるという空間的な性質によって支えられて

いる。社会的自己と言っている。

『夢十夜』の連作は、時間的な永遠は手に入るが空間的な永遠は手に入らないという実にシンプルな構造を持っている。解釈による揺れを度外視して簡単に挙げておくと、時間的な永遠は「第一夜」の百年、「第三夜」の百年、「第八夜」の「高々百枚位」の紙幣、「第九夜」の「御百度」、「第十夜」の「無尽蔵」にやってくる豚が表象している。空間的な永遠は「第二夜」の「無」、「第四夜」の「隣の奥」、「第五夜」の「自分」と「女」との距離、「第六夜」の「自分」の家と「護国寺の山門」までの距離、「第七夜」の船の「甲板」から海面までの距離が表象している。これは、漱石がこの構造に意識的であったか無意識であったかにかかわらず、漱石の自己確信と他者不信の現れのように思える。そして、これは漱石文学の基本構造でもある。漱石の主人公たちは、ほんとうは自己に怯えているのに、他者に怯えているよう

に思い込んでいるというように。

運慶・護国寺・仁王

「第六夜」はこういう話だった。護国寺の山門で運慶が黙々と仁王を彫っている。鎌倉時代のものであるが、見物人を見ると明治の現代のようでもある。見物人が運慶は木の中から仁王を掘り出すのだと言う。さっそくやったが、自分にはできなかった。明治の木には仁王は埋まっていなかったのだ。

少し注釈的なことを書いておこう。

運慶は、鎌倉時代の仏師であり、空海を開祖とする大乘仏教の真言宗の僧侶でもあり、『法華経』を写経もしている。『法華経』は平等な救いを説く。源頼朝が挙兵した一一八〇年に、平重衡の襲撃によって奈良の寺が大きな被害を受けた(南都焼打ち)。運慶は東大寺や興福寺の復興に携わり、一二〇三年には、いまに伝わる有名な東大寺南大門の金剛力士像(仁王)や興福寺の仁王像を中心となって造像した。絵画とはちがって、運慶の時代の宗教彫刻には、その質感から「永続性(永遠性)」や「霊驗性」が期待されたと言う。また、運慶は鎌倉幕府と朝廷双方の中核と関わりを持った唯一の仏師だっ

た(金子啓明『運慶のまなざし 宗教彫刻のかたちと霊性』岩波書店)。言うまでもなく、護国寺は真言宗派だが、江戸時代に作られた比較的新しい寺である。

見物人は品がないようだ。運慶の彫っている仁王は日本で一番強いと評判する男は、こうだ。「この男は尻を端折って、帽子を被らずにいた。余程無教養な男と見える」と。戦後のある時期まで、成人男性は外出時には帽子を被るのが習慣だった。『道草』の冒頭に現れる主人公健三の養父島田は、帽子を被らないだけで不気味な感じを与えている。健三だけでなく読者もそれを感じるから、以後の島田のイメージが決まるのである。「第六夜」に戻れば、これより少し前の「人間を捨てるよりも余つ程骨が折れるだろう」という言葉には、性的なニュアンスがある。見物人は、運慶とは対照的な男たちなのである。

『夢十夜』の基本構造に従えば、仁王には「永遠性」があるのに、明治の木に仁王が埋まっていないのは、護国寺と「自分」の家までの距離(空間)が障害となっているからだと考えればすむ。「自分」が明治の見物人とうまくコミュニケーションが取れていない理由も、他者不信の一つの形だということになる。

見物人をやや差別的な眼差しで見ると「自分」が、『法華経』を写経した運慶と同じことができぬのも当然なのだ。

しかし、教室での「第六夜」は近代批判の枠組みで読まれることが多いのではないだろうか。ごく平たく言ってしまうと、近代となった明治の世には、運慶の彫っている仁王のような立派なものはないのだと。「自分」が仁王を彫りだせなかったことだけでなく、やや品のない明治の見物人たちもその印象を強めているはずだ。教室での問いは、「では、どうして明治の現代には仁王が埋まっていなかったのか」となるだろうか。「第六夜」にその答えはない。ないから国語教材になるのだが、「第六夜」はこの問いを誘うような一種のオープンエンディングになっている。生徒たちはどのくらいの自由度でこの問いに答えるのだろうか。

たしかに、漱石は「近代」が嫌いだった。近代という時代も近代というシステムも嫌いだった。漱石には、近代は個性を生み出すようなシステムと個性を抑圧するようなシステムがなぜか矛盾なく併存しているように見えたらしい。個別化と均質化が同居しているわけだ。漱石の用語系では、前者は自意識

り方の問題だと言える。

「第六夜」は、「第六夜」が誘発する問いに答えようとして、個人が試される実に高級な作品だと言えるだろう。

「わからない」という感覚

しかし、「第六夜」が誘発する問いの答えは結局わからないのではないだろうか。それは、とりつく島のない運慶がわからないという感覚を含んではいないだろうか。そう感じたとき、私たち読者は「第六夜」の「陰謀」にはまったのだ。

フランスの思想家・ジャン＝ボードリヤールに『芸術の陰謀 消費社会と現代アート』（塚原史訳、N T T出版）という刺激的な文章がある。現代アートは自らが「無価値・無内容」と主張し続けるのだと言う。たしかに、ポコポコにされたブリキ缶にペンをきをでたらめに吹きかけた「作品」を見せられれば、これは「無価値・無内容」だと思う。しかし、そのとき私たちは現代アートの「陰謀」の手に落ちたのだと、ボードリヤールは言うのだ。

それは、こういうことだ。その「陰謀」とは、「現代アートをまったく理解できない人びと、あるいは

で後者は道義であるはずだが、初期の漱石は、『虞美人草』の藤尾のように自意識を女性に与えて嫌い、道義を男たちに与えて称揚した。後期の漱石は、自意識も道義も男性知識人に与えて、その悩みを書いた。つまり、近代の矛盾を暴いたのである。ここで言いたいのは、学校空間がそうやってはいないかということなのである。個性を言いながら、その一方で「らしく」と言って古い道徳に押し込めてはいないだろうか。これが漱石の文脈から読んだ「第六夜」が批判する近代ではないだろうか。学校空間の説明であれば、よくわかるのではないだろうか。

では、運慶の文脈ではどういう答えになるだろうか。運慶の時代の宗教彫刻には「永続性（永遠性）」や「霊驗性」が期待されたというのであれば、明治の現代で失われたのはこの二つのものということになる。これこそが、時間的な永遠は手に入るが空間的な永遠は手に入らないという『夢十夜』の文法通りの答えになる。これは「第六夜」に書いてあるのだろうか、それとも書いてないのだろうか。難しい問題だが、それが文学の面白さでもある。しかも文学にかぎらず、わかる人にしかわからないことはいくらでもあるのだから、これは個人というもののお

そこに理解すべきことなど何も存在しないことが理解できなかった人びと」に（私には、もしかしたら現代アートがわからないのではないか）という不安を呼び起こし、そのことで現代アートには自分だけがわからない何か特別な価値や内容があると思わせることができる仕掛けである。それによって、現代アートは簡単には理解できない、まさに解釈されるべき価値と内容を持つ「芸術」になる。繰り返す。現代アートを「芸術」にするのは、私たちの「わからない」という感覚なのだ。

これは現代アートに限らず、すべての芸術に言えることだろう。「第六夜」が誘発する問いの答えがわからないと思ったとき、運慶の作っている仁王が、明治の現代では「わからない」ような、解釈されるべき価値と内容を持つ「芸術」となっている。そして、「第六夜」の読者は、最後に「自分」が何を「わかった」かがわからない。そう、そのとき「第六夜」こそが解釈されるべき価値と内容を持つ「芸術」となっているのである。「第六夜」とは「芸術」が誕生する仕掛けそれ自体を書いた小説だった。ここに「第六夜」を学ぶ意義がある。

読んできた本、 読んでほしい本

⑫

鈴木 のぞみ

春日部共栄高等学校



■一人でいることを恐れない

生徒たちの人間関係やそれに対する考え方を見ていると、生きづらそうだと思うところがある。彼らはクラスや友達のグループから浮くことを嫌い、自分の価値観を曲げたり、考え方の合わない人と付き合ったりしても、「みんな」の輪の中にいようとす。話を聞いてみると、「本当はあまり居心地が良くない」、「周りの子の行動を良いものだと感じないが、指摘してハブられたくない」といったような言葉が出てくる。

私は、幼い頃からこうした考えに共感できただけではない。ストレスを感じたり、自分の価値観を曲げたりしてまで人と付き合うくらいなら、一人でいる方がずっと良い。本当に信頼でき、価値観の合う一握り

の人とだけ交流が持てれば十分である。

また、生徒たちには何かを自分で決断し、それに対して責任を負うことを避ける傾向があるように思える。そのため、本当は周囲の生徒とは異なる意見を持っていても、多数派の方に流れてしまう。そんな生徒たちにぜひ今触れてほしい作品が坂木司『夜の光』（新潮社〇〇六、新潮文庫〇二二）である。

この作品は、とある高校の天文部に所属する四人を主人公とした小説である。彼らはそれぞれが家庭や進路などに悩みや問題を抱え、それらと闘いながら高校生活を送っている。四人は友達ではなく、用事がなければ連絡を取ることも会うこともしない。悩みや問題を相談することもない。しかし、月に一度学校に宿泊し、必ず一緒に星を見上げる。彼らは夜を共有する「特別

な仲間」であり、彼らはただ仲間の存在を支えに、それぞれの闘いを続ける。

この作品の大きな魅力の一つは、「友達ではないが仲間」という四人の関係性である。彼らは馴れ合わないのに、必要な時にしか関わらない。しかし、共に星を見る時間やこうした関係性をかけがえないものだと思う、大切にしている。彼らは読者に個人主義というスタンスを提示し、また、肯定してくれる。四人の高校生が仲良しグループではなく、自立した個の集まりとして描かれているところが秀逸であり、彼らと同じ思春期の生徒たちに同じ立場で触れてもらいたい作品である。

生徒たちにも、時には一人でいることや、自分の考えを貫くことを恐れない人になっしてほしいと願う。

本コーナーでは、毎回、全国のさまざまな先生方よりオススメの本をご紹介します。



国語辞典を使った授業実践

国語辞典を読んでみよう

東京大学教育学部附属中等教育学校

おおい かずひこ
大井和彦

はじめに

新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力として、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の三つを柱として挙げている。今までの辞書は、あることばがどのような意味を持つのかという疑問に答えるものとして、「知識・技能」の習得に大きく寄与してきた。これからはそれに加えて、理解していることをどのように使い、社会・世界と関わっていくかという観点でも、国語辞典とのつきあい方を考えていくことが肝要と思われる。

生徒に辞典を適切に使う営みを考えさせることは自らの言語運用に問題意識をいかに持たせるかということとも言えるだろう。具体的には、「辞書を引く」Ⅱ「ことばの意味を調べる」だけの行為から一歩進んで、生徒各々が自らの言語体系を見つめ直していくことが望ましい。

今回は、そのことを念頭に置き、国語辞典というもの

を生徒に考えさせるきっかけとして、次のような授業を試みた。

■生きている国語辞典の存在を感じる

授業は、中学二年生を対象として二〇一八年七月に行った。主たる学習目標は、辞書編纂には理念が存在し、それに携わる人々がいることを理解することとした。

①国語辞典との出逢い方を振り返る

まず、「国語辞典との出逢い」を思い出してみてください」として、初めて自分用の国語辞典を持ったのはいつか、国語辞典を買ったことはあるか、などの質問を生徒に投げかけた(次ページ上段プリント参照)。すると、小学校中学年の授業で紙の国語辞典を初めて所有し、小学受験のために小学生向けから大人向けのものに買い換えをした者が大多数であった。

②「本」と「辞典」を考へる

次に、各々の所有する国語辞典が改版されていること

国語辞典との出逢いを思い出してください

組 番 氏名

◇国語辞典に触れて調べた最初の記憶はいつですか？

() (才頃) あるいは () (年生頃)

◇国語辞典の調べ方はどうやって知りましたか？

◇初めて自分用の国語辞典を持ったのはいつですか？

↓それは紙？電子？ (紙) (電子)

◇国語辞典を買ったのはいつですか？

(ある) (ない) ↓理由:

◇なぜ国語辞典は改版(編集し直す)ことを行うのだと思いますか？

◇なぜ国語辞典の種類がこれだけ多くあるのだと思いますか？

から、なぜ国語辞典は改版されるのかを尋ねた。答えとしては、やはり「ことばが変化するから」という理由が多く挙げられた。各辞典が時代への対応をしているという観点は生徒にはあることが分かる。

更に、こちらから小型国語辞典の实物を十種類程度示し、なぜこれだけ数多くの国語辞典が存在するのかを尋ねた。生徒の中には『新解さんの謎』(赤瀬川原平著 文藝春秋 一九九六)を知っていて、辞書編纂の話題を取り上げた者もいた。そこで、辞典も著作物であり、著作権とともに出版意図や編集方針が存在し、それが辞典の前文にも書かれていることを紹介した上で、班ごとにいくつかの辞典の前文を読ませ、感想を述べさせた。

③国語辞典を読んでみる

生徒は、辞書によってことばに解釈の違いがあるというところは理解できているようだが、辞書が規範性を求められるものでありながら、多様性をもつのはなぜかというところを投げかけると、唖然としてしまっている様子だった。

そこで、辞典の「歴史主義(歴史的な使われ方重視)」と「現代主義(現代の使われ方重視)」、「理想主義」と「現実主義」について感じ取ってもらうために、各辞典に新語や新しい用法が載っているか、また、使い方についての注意が書かれているかどうかを、班ごとに協力して調

べさせた。調べる語は、『明鏡国語辞典』に付属する『明鏡 問題なことは索引』の「気になることは索引」から、「個（年齢を数える用法）」「半端ない」「なさげ」「ぶっちゃけ」「がち（がちんこの略）」「上から目線」の六項目を挙げた。なお、この『問題なことは索引』には「誤用索引」「敬語索引」もあり、ことばの現代性を反映させようとしている意図が感じられる。飯間浩明氏の評価では、『明鏡国語辞典』は「現代主義・理想主義」であるとしている（飯間浩明『国語辞典のゆくえ』NHK出版 二〇一七 一五〇頁）。

班ごとに参照できる辞典は、四〜五種類程度であったが、それらの比較の中で、各辞典の編集方針の違いを考えることができたように感じられた。

④まとめ・ふりかえり

授業後の生徒からの感想・疑問には以下のようなものがあった。

- ・ 改版でそのことばをどこまで追いかけていくのか興味を持った。
- ・ 辞書を持っていることに意味がある訳ではなく、辞書を目的に合わせてどのように利用していくかが大切。

- ・ どうやって辞書が作られているのか気になった。
- ・ 保守的だったり現実的だったりというのはどういう風に決められて、どちらがいいのだろうか。（多数）
- ・ 辞書をネット上にオープンにして何のメリットがあるのか？

授業としてはここで終えたが、生徒の感想からは規範性と多様性との両立に対する意味付けから、ネット辞書の存在意義に至るまで、辞書そのもののあり方について考えられる可能性が見えた。

ことばというものはこの世の誰かが発信しているという前提があり、それを考えることはメディアアリテラシーそのものとも言え、またそれを敷衍すれば、文学の登場人物の心情把握、評論の筆者における主張把握に通じると考える。そのように辞書を考えることができるならば、彼らの持った変化していくことばと辞典という関係の中で、辞典を消費する対象として見ていくこともできるようになるのではないだろうか。

その結果として、ことばの無謬性に対する柔軟で自律的な感性も備えていくことはできないかと考える。また、社会的に今後も辞典が存在し続けることを支えることに繋がるだろう。



国語辞典を使った授業実践

「書くこと」のための辞書活用

かごしまちひろ
籠島千裕

土浦日本大学高等学校

■はじめに

今年の三月に公示された『高等学校学習指導要領』を踏まえ、「書くこと」の学習として、「小論文に適した表現や言葉遣いを理解し、使い、語彙を豊かにする」という目的のもと、小論文指導を行った。対象は高校三年生、理系の、大学進学を志望し、推薦入試を受ける生徒も多いただろうクラスである。テーマは人工知能(AI)が多用されるようになってきた現状について、賛成か反対かの立場から論じさせるものにし、事前にテーマを伝えた。字数は四百字、時間は五十分である。

用紙には、「読み直したか、理由を明確にしたか、主語と述語は一致しているか」など八つの「セルフチェック」項目と、「字は丁寧で誤字脱字がないか、構成は適当か」といった五つの「評価」項目を掲載し、生徒自身が身につけるべき能力を理解して学習内容を確認できるように配慮した。

今回は、「語彙を豊かにする」ということで、辞書を使って書かせることにした。新たな語彙を使えるようになるには、使わなければならない。いくら言葉を暗記し、読んでも、自分で使いこなせるようにはなかなかならない。「書くこと」の場面で活用できる語彙を増やすためには、実際にその語句を使って書いてみるのが一番である。そこで、類語辞書について説明し、表現を言い換えたとき、同じような意味でもっといい表現を探したいときに使うよう伝えた。

そして、一度生徒が書いたものに教員からの添削を加え、返却したものをもう一度書き直させるようにした。添削によって自分では気付かない誤りに気付かせ、もっといい表現を検討する経験を積むことで「書く」力をつけさせていくための活動である。

■授業の実際

小論文を書く活動になると、書く内容が思いつかず、一文字も書けずに困りはてる生徒がクラスに一人二人はいるものである。授業の小論文指導で行いたいのは、書きたい内容を「どう表現するか」という点であるため、事前にテーマを提示し、何を書くか考えてくるように指示した。それによって、生徒の全員が規定の字数に近いものを書くことができた。

また、生徒たち自身にセルフチェックをさせたが、欄に○をつけ自分ではきちんとチェックしたつもりでも、十分とはいいがたい部分が多かった。誤字脱字にさえ気付けない生徒が多いが、自分で自分の文章を見直す習慣をつけることが、自己添削できるようにするため、最初の一步であろう。

小論文を書かせてから、教員が添削を行い、指摘箇所の種類を分類して集計し、その結果をもとに「誤りやすいポイント、辞書を活用した添削の仕方、類語辞書を使ったよりよい表現の探し方」を提示するプリントを作成し配布、それと個人々人への添削を元にリライトさせた。誤りやすいポイントとして示したのは以下の四点である。

・漢字の間違い、送り仮名の間違い

る。国語辞典を使用している生徒は、多くが漢字表記を確認するために使用していた。しかし、「じんけん」を検索していた生徒が書いた小論文には、「人権費」という誤字があった。辞書を使っても、見出しをみるだけで、その語の意味まで読んで確かめていないことから起きる間違いである。電子辞書は検索スピードは速くなる利点はあるが、各語の意味内容を確認するためにその項目を選ぶ手間が増える。紙の辞書は目的の語を探す検索スピードは遅いが、語の意味内容を確認することは開いたページをそのまま読むだけで出来る。古典でも、英語でも同様であろうが、辞書を検索する際にはきちんと項目の内容まで確認して文脈に適しているか吟味する習慣をつけさせるよう指導をしていくつもりである。

また、主語と述語や、副詞や接続詞との呼応表現など文法的なミスも多かった。「人間社会間の雇用」のような接尾辞の誤りや、「人の体への負担が減らす」のような主語と述語の関係についての誤りは、辞書でその表現の使い方を調べることは難しい。「確かにくしかし」のような反論を想定しそれに反駁する言い回しは、小論文で多く活用される(『大学入学共通テスト平成29年度試行調査』でも出題されている)が、「しかし」に続く文が疑問になっているなど、使い方を間違えている生徒もい

・主語述語や副詞などの呼応の間違い

・「くしかし」の位置がおかしい、足りない

・助詞や助動詞や接尾辞の使い方の間違い

多く指摘したのは、「くしかし」「私はくしかし」という表現を使ってしまうことである。もちろん文法的には誤りとはいえない。しかし、小論文を書くときに、逐一この表現がつきまとうのは、自分の意見を主張すべき小論文において控えぬべきである。しかし、これについては「くしかし」を小論文で使わないようにしよう、と指導するだけで劇的に減少した。生徒は、小学校・中学校の頃の書き方を踏襲している。感想を述べる文章に慣れているため、「くしかし」という表現が多いのではないだろうか。小学校・中学校の頃の作文と、高校生の小論文とは、文章の性質や目的、使用を期待する語彙が異なる。高校生段階で求められるレベルの、自身の主張を述べる際の表現の仕方を、小論文指導ではつきりと示していきたい。

次に多かったのが、誤字である。はじめに小論文を書く段階から、辞書の使用を許可していたため、辞書を使用しながら書いている生徒が十四人見受けられた。使用していたのは、明鏡国語辞典などの国語辞典が八人、電子辞書の複数辞書検索機能が五人、英和辞典が一人であった。例文などを活用し、小論文で多用される表現の使い方を示す学習資料があるとよい。授業の中で一時的に使用するものではなく、辞書のように、文章を書くときにいつでも参照できるものであることが望ましい。

■まとめ

生徒は、自分で自分の誤りに気付くことが出来ていない。誤りやすいところやよりよい表現を提示し、添削できるようトレーニングさせることが必要だ。

誤字の訂正については、辞書を活用できるようにすれば、ある程度自力で添削ができるだろう。辞書をきちんと活用し、適切な情報を得られるように使い方を学習させなければならぬ。また、小論文に向けた表現や、小論文でよく使われる呼応表現のミスをなくすためには、高校生に求められる語句・表現・構成を学習の到達として提示し、教えていくことが必要だ。

小論文など「書くこと」の指導のためには、辞書や表のような形式の、多用される表現や語句の使い方について調べられる学習ツールと、それを適切に活用する能力を育成することが必要である。教員には、それらの学習ツールを作ること、使い方を教えることが求められていくのではないだろうか。



辞書の行方

みやけよしろう
二宅義藏
千葉県立千葉高等学校

❖「紙」か「電子」か

例えば「羅生門」の授業中、私が、「それでは辞書で意味を確認してみよう」と言う。生徒たちは一斉に辞書を引く。その辞書は、ほぼ例外なく、電子辞書である。

そういえば、ここ数年、紙の辞書を引く高校生の姿を見ていないような気がする。高校生は、「紙」「電子」それぞれの辞書について、どのように考えているのだろうか。

そこで、アンケートを取ることにした。対象は、県立千葉高校の一年生、二年生、三年生の各学年から一クラスずつ、合計122名である。

まずは、「紙」「電子」それぞれの辞書を、自分用として持っているか、という質問である。結果は、紙の辞書を所持している生徒は60%、電子辞書を所持している生徒は96%だった。

次に、国語の辞書は主にどれを使うか、という質問。結果は、「電子」が86%、「紙」が2%（「国語の辞書はほ

んど使わない」とする生徒が数名。「紙」を主に使うという生徒は人数では、122名中、3名であった。

❖「電子」優勢

「紙」と比べて「電子」の良いところを書いてください、という自由記述欄には、電子辞書の魅力がずらりと並んだ。「素早く引ける」（同様の趣旨を書いた者65名）「コンパクトで持ち運びがしやすい」（同55名）「一台に多くの辞書が入っている」（同14名）「ジャンプ、履歴など、紙には無い機能がある」（同6名）など、合計157点。

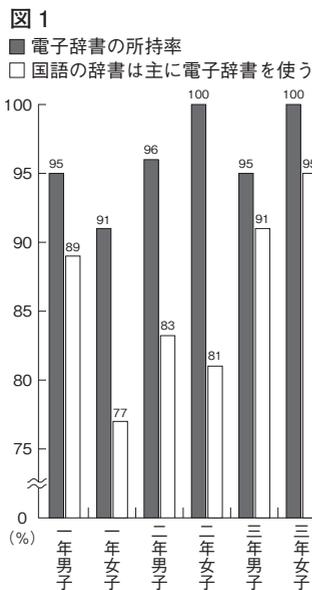
ちょっと意外だったのは、「音声で聞ける」や「文字の大きさを変えられる」という魅力を書いた生徒がいなかったことだ。関西出身の私などは、標準的なアクセントを確認するために電子辞書の音声機能を使うことがあり、漢字の細かな所を確認するために字を大きくすることも多いのだが、東京近辺の生まれ育ちで、老眼には縁のない生徒たちには、そういう機能はあまり必要ないと

いうことか。ともかく、音声機能や字のサイズ変更機能などがなくても、つまり、単純に言葉の意味を調べるということだけでも、高校生にとって「電子」は「紙」よりも魅力的、ということなのだ。「電子」優勢である。

❖「紙」危うし？

ここであらためて辞書の所持率を見てみると、ちょっと目についた数字があった（図1参照）。

アンケート結果は、一年男子、一年女子、二年男子、二年女子、三年男子、三年女子、の六つのグループに分けて数字がまとめられている。そのうち五つのグループで電子辞書の所持率は95%を越えているのだが、一つのグループだけ91%にとどまっているのだ。また、国語の辞書は主に「電子」を使う、と答えた者が、五つのグル



ープでは80%を大きく越えているのに、その一つのグループだけは77%だけだったのだ。その一つのグループとは、一年女子。

一般的に、ポケベル、PHS、携帯電話など、新しい電子機器を早く取り入れるのは、男子より女子、年齢は若いほどその傾向が強いと思われる。それなのに、一年女子が、他のグループより電子辞書を使っていない、という結果が出た。

時代の最先端を歩んでいると思われる一年女子が、電子辞書離れ。これは「紙」の復権を示しているのか。

そうではなかった。主に使う国語辞書として、一年女子は、その18%が「スマホ」と答えたのだった。

聞くところによると、スマホで複数の辞書を見ることができるといふ。また、辞書によっては、今どんな言葉が多く調べられているか、アクセスランキングのようなものも知ることができるという。

これは強敵である。「紙」に対する「電子」の優秀性に「コンパクトで持ち運びがしやすい」というものがあったが、スマホですますことができれば、そもそも「辞書」というものを持ち運ぶする必要がなくなるのだ。その上、電子辞書でもできない機能があるとすれば、今後、多くの人がスマホに流れることも考えられる。

電子辞書だけでなくスマホも強力なライバルとして登場してきた。いよいよ、「紙」危うし、か。

❖「紙」侮るべからず

こうして見ると「紙」の命は風前の灯火のようであるが、アンケートでは意外な結果も出た。自由記述欄で、「紙」と比べて「電子」の良いところには157点の記述があったが、「電子」と比べて「紙」の良いところにもほぼ同数の152点が記されていたのだ。

そこには、「調べたい言葉以外の言葉も目に入って出会うことができる」（同様の趣旨を書いた者42名）「書き込みや付箋がしやすい」（同27名）「手間が掛かる分、記憶に残るし、愛着も湧く」（同25名）「読み物のように使え、おもしろいと感じることが多い」（同8名）「におい、手触りが良く、めくるのが楽しい」（同11名）「故障が無く、電池切れの心配が無い」（同16名）「見出し語が多く解説も詳細、絵入りのものもある、辞書編集の努力の跡がわかる」（同7名）など、多くの「紙」の魅力が記されていた。

「多くの言葉に出会える」「記憶に残りやすい」など、学習面での優秀性に加え、「おもしろい」「楽しい」など、心の喜びを高校生が認識しているというのは、大きなポイントだ。「紙」侮るべからず、である。

❖辞書の行方

アンケートでは、自由記述欄に「高校生が大いに国語辞典を活用するためにはどのようなことが必要だと思いますか」という質問も設けた。ここには、「最近の言葉も載せる」「マンガやイラストなどを入れてニュアンスをわかりやすく伝える」「語の由来を載せる」「最近の用法で誤ったものを説明する」「用例をおもしろくする」「物語風にする」「図、表、絵を多くする」「自分で必要な辞書をカスタマイズする」「リンク機能を充実させる」「各教室に常備しておく」「読み方がわからない熟語を調べやすくする」「楽しいコラムを載せる」などなど、百を超える声 that 記された。

辞書作りの場では、このような声をさまざまな方法で収集し、それらも参考にしながら今後の辞書作りを進めていくのだろう。私の行ったアンケートは極めて小規模なものだが、それでも、重要と思われる要素が幾つも記されていた。その要素の中には、「電子」でなければ実現できないものもあれば、「紙」の方が向いているな、と思われるものもある。

「紙」と「電子」。今後、互いにそれぞれの良さをさらに発揮しつつ、進化していくのだろう。その辞書の行方を、大いに期待しつつ、見つめていきたい。



古語辞典を使った授業実践

古語に親しむ学習活動

— 中学一年×『新全訳古語辞典』 —

やまじさだふみ
山路貞文
桐光学園中学高等学校

古典を学び始めた学習者は、「難しい／わからない」「つまらない」、さらには「古典は苦手だ／嫌いだ」「昔の文章を読んで何になるのか？ 古典学習の必要性が感じられない」といった感じで、とかく否定的な印象を述べることが多い。そのような「古典嫌い」を招く要因の一つとして、現代語との乖離があることはよく言われていることである。

中学一年生で使用する教科書の多くは『竹取物語』を収録している。多くの生徒は幼少期に絵本などを通してこの作品に触れているので、初めて出会う古典作品としては取り組みやすい。また、このレベルであれば、用語彙も易しめであり、古今異義語も出てくるため、古典学習の導入教材としては最適でないかと思われる。そうは言っても、古文で綴られているので、古語辞典を使用する必要がある。古語辞典で意味調べをする学習活動の導入を楽しむことはできないだろうか。そのような思い

で担当している、今年度の中学一年生の授業の様子を紹介しようと思う。

教師 「今は昔」って、どいつのことかな？

生徒 むかしむかし！

教師 たしかに、絵本の書き出しはだいたいそうだね。でも、古語辞典ではこの言葉の意味をどのように書いているか、調べてみようか。

生徒 載っているんですか？

初めて使う古語辞典。例文は、今まさに自分たちが読みはじめた文章であることに気づいた生徒たちが反応を示す。

次いで、「まじりて」を調べさせる。

生徒 「まじりて」は「まじって」でしょう？

生徒 まざっている！

教師 いやいや、おじいさんが野山とミックスされてし

まつ、つていうことではないよね？ 古語辞典ではどんな意味を載せているか、確認しよう。「まじりて」で調べても見づからないよ。「まじる」という形で載っているから調べよう。

とサポートする。

生徒 あつ、②の意味の例文も『竹取物語』のこの部分だ！

続いて「あやしがる」を引かせる。ここで生徒たちは、現代語と異なる意味で用いられていた「古今異義語」に出逢う。同様に「うつくし↓うつくしい」「いとほし↓いとおいしい」「かなし↓かなしい」などを取り上げ、現代語との意味の違いを確認していくうちに、調べるのが楽しくなってくる。

さらに「かひなし」。例文にはやはり『竹取物語』が使われている。

生徒 「甲斐なし」と「貝なし」。駄洒落じゃん！

このようにして生徒たちは古語辞典を使うことに慣れていくとともに、クラスで一番早く見つけられるよう、競い始めるようになる。

「いなば」「まつ」といった掛詞に気づき、言葉のおもしろさを実感しているようである。

生徒 先生、もつと調べてみたい！

教師 では、ひとつ紹介するよ。「あなかま」という言葉調べてみて。教室でよく使っている言葉だよ。

生徒 あつた！「しつ、静かに。ああ、やかましい」だつて。今度からうるさくなつたときに「ウルセーよー」とか「静かにしろよー」のかわりに「あなかま」つて言おう！

生徒 他にも何かないですか？

教師 みんなの日常会話でよく聞かれる表現だけど、「むげなり」はどんな意味かな？

生徒 「サイテー」だ！古語でも表現できるんだ！

生徒 先生、じゃあ「ウザい」つていう単語、ありますか？

教師 「うたてし」はどっつかな？

といった具合で、しばし盛り上がる。

教師 できればプラスの感情表現も覚えようよ。「いとほし」を引いてみよう。意味の上に、「一」や「十」



▲古語辞典の基本的な使い方を紹介する「使いこなしガイド」。

生徒たちが興味を示したところ

教師 似たような感じのもので、こつという言葉もあるよ。見つけられるかな？

と、行平の「立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む」を板書する。

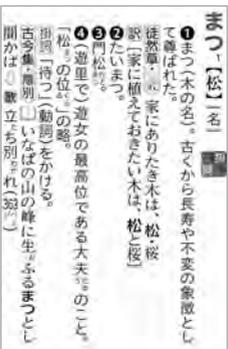
生徒 それも辞書に載っていますか？

生徒 百人一首だ！小学校の時覚えた。

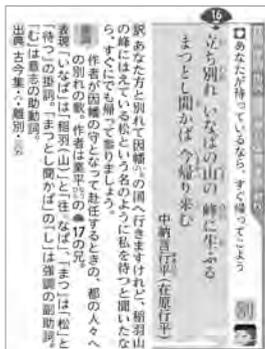
教師 そうだね。よく知られた和歌は、351ページからの「名歌名句事典」というコーナーに載っているのだから、取りあげられているかも。

生徒 はい、見つけた！ 363ページ！

生徒 探してるんだから言わないでよ……。



▲掛詞を説明しているページ。



▲有名・重要和歌が一覧できる「名歌名句事典」。



▲+、-のニュアンスを示すアイコン。

があるよね。これは、それぞれプラスの感情、マイナスの感情、マイナスの感情ということを示しているんだ。みんなでぜひ、プラスの感情を表す単語を古文単語に置き換えて、使ってみてほしいな。

と提案をしたところ、生徒たちも相当乗り気ではあったのだが……。何しろまだ、現代語でさえ語彙が豊富とはいえない中学一年生である。まして古文はまだ学習が始まったばかりなので、「逆引き」のような形で語彙検索はなかなか進まない。今のところ、始業前に教室に入った時にあちらこちらから大声で聞こえてくる「あなかま！」は、男子クラスを中心に認知度が上がっている。

今後も、生徒とともに、『新全訳古語辞典』を使用して、言語表現の奥深さ、おもしろさを味わってほしいと思う。



古語辞典を使った授業実践

古語の足し算・引き算

——古語辞典でアクティブ・ラーニング

あきつゆか
秋津由佳
常盤大学高等学校

『新全訳古語辞典』で古語に親しむ

新学習指導要領では必修科目の「言語文化」において「我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする」とあり、言語活動に古典知識を取り入れて表現することが重要視されてくるのではないかと感じる。

しかし、高校の授業ではどうしても本文の現代語訳のテクニクや特殊な文法項目に注目してしまいがちだ。どうしたら古語に興味を持ち、古語や文法を自分の国の伝統文化として理解し、自分で使える知識となるのかを考えた結果、古語辞典を使って楽しみながら古語と文法を身につける授業を試行錯誤しながら実践している。

最終的には古語作文を自由題で書けることが目標だが、高校一年生の初歩の段階では自分で組み立てるプラモデルのような感覚で古文の足し算を生徒に考えさせるところから開始している。現代語訳や古語解説について教師が一方的に解説する従来型の授業よりも、生徒がい

きいきと活動できるようだ。古典の授業は、どうしても

オリジナルの本文を絶対的なものとして扱ってきたが、英作文に何通りかの表現があるように、同じ気持ちで別の古語で言い換えてみる古文パロディや現代語との自由なコラボレーションがあってもいいと考え、気軽に参加できる雰囲気を作ることを心がけている。

本校では一年生全員に『新全訳古語辞典』を導入した。自ら学習する方法を覚えて古語を使いこなし、辞典を開く回数を増やすことを目標としている。

■古語の足し算

●ワークシート①(足し算レベル1)

問 次の品詞の条件となるように古語作文を書きなさい。

▼名詞+助詞+形容詞+名詞+助詞+動詞+助詞、

例文(翁はいとほしきことと思ひて、

訳(翁は気の毒なことだと思って、

足し算プリントは、文法初心者の子品詞理解に効果的

あった。副詞や連体詞・感動詞の使い方を考えることで、教科書に登場することが少ない品詞の理解が飛躍的に伸びた。グループ内で使える単語を限定すると(誰かが使った古語は使用禁止など)、別の単語を時間内に探さなければならず、辞書を効果的に使うことができる。「まとめて覚える!一覧」(後見返し)を上手に使うと時間短縮できることを発見したチームは、内容が充実していた。リレー形式の物語風に発表したグループもあり、クラス全体の学習意欲が向上した。助動詞はカテゴリーごとに追加していくとニュアンスの違いの理解につながる事が確認できた。

■古語の引き算

●ワークシート②(引き算レベル1)

問 次の古文からA~Eの文法事項を順に引き算して答えなさい。

▼人ども来とぶらひけれど、騒がず。

〔絵師良秀〕(宇治拾遺物語)

- A 接続助詞「ど」(人ども来とぶらひけり。騒がず。)
- B 過去の助動詞「ん」(人ども来とぶらひ、騒がず。)
- C 打消の助動詞「ん」(人ども来とぶらひ、騒ぐ。)
- D 名詞「来とぶらひ、騒ぐ。」
- E 動詞「(解なし)」

引き算では、教科書の本文から文法要素を除くことによる変化を考えさせた。解答が一つになってしまうので、

話し合いの内容は単純になるが、ゼロになるまで引き算する作業では、ワークシートのDで「ども」の品詞が議論となり、意味や用法に興味を持った生徒が「辞書の〇〇ページにあるよ!」とか「先生、接尾語って品詞なんですか?」など活発に議論する場面もあった。品詞で省いた部分を指摘されて、「そこまでは受験に出ないから……」と言いかけてはつとした。最短距離を進ませようとして興味を失わせたのは教師側かもしれないと反省。知らなくていい知識などないはずなのに。文法書だけの授業では見られなかった学問との出会いが、辞書引きにはあることを実感した。

■教師の挑戦が生徒を変える

全員が同じ辞書を持つことで、全体で共有できる便利さと古語を見つけた楽しさを同時に感じることができている。思い切った古典文法書と国語便覧、古語単語集を一冊の辞書に置き換えて正解だったと感じている。今後は、古語で日記を書き発表する授業を展開し、新入試で話題となっているポトフオリオを古語で書かせる探究的学習につなげたいと計画している。何事もたった一つの挑戦から。教師が失敗を恐れないことが生徒を変える。これからの『新全訳古語辞典』は、古文の実験授業で私の良きパートナーになりそうだ。



漢和辞典を使った授業実践

議論を生み出す漢詩の授業

——(漢詩×辞書)＋議論Ⅱ傑作

さかたまさみ
酒井雅巳

巣鴨中学校・高等学校

■一点のくもりを晴らす出会い

ときは二十数年前のとある中学校の教室。期末試験が行われている。一人の少年が「日本初の内閣総理大臣は誰ですか」という問いに、悩んでいた。答えが分からなかったのではない。「伊藤博文」の「博」に「」がつくかどうかで悩んでいたのである。試験終了十秒前まで悩んだ結果、「」はつかない!と判断した少年は、答案返却時にガックリと肩を落としたのであった。

その後、少年は疑問を持った。「同じようなかたちなのになぜ」「」がつく漢字とつかない漢字があるのだろうか。さっそく家に帰って漢和辞典を調べていくと、驚くべきことがわかった。「縛」「博」などのつくりの形は、成り立ちが「甫」「土」「寸」で、「専」「穂」などは、もともと「東」「土」「寸」なのである。当用漢字表で字体が整理されて同じような形になり、区別がつきづらくなったようだ。さらに、この問題に終止符を打つ解説があった。

「甫」の音が「ホ」なので、この字を持つ漢字の音読みはハ行の音を持つ

確かに! 「博」は「ハク」だし、「縛」は「バク」(の場合は濁点がついているけど)「補」は「ホ」だ! 「専」は「セン」で「穂」は「スイ」(「ほ」は訓読み)だ! この日以来、「」をつけるかどうか、迷うことがなくなったのである。これ以降、少年すなわち筆者は漢字の成り立ちに大きな興味を持ち、その結果、国語教師という道を歩むことになる。

このような経験を生徒にも経験してほしいという思いから、筆者の授業では、漢和辞典を使用することが多い。しかし、今も昔も漢字を書くのが苦手、という生徒は多い。そういった生徒たちに多く見られるのは、漢字を単なる記号としてしかとらえていないことだ。「冷蔵庫」を「冷臓庫」と書き間違えるのは、「臓」の「月」の部分を「にくづき」と認識していないことによる。「にく

書館で授業を行い、漢和辞典を使わせるスタイルにした。これならいちいち漢和辞典を持ち運ぶ必要はなく、さまざまな種類の漢和辞典を使えるので、比較読みにもつながる。漢和辞典を気軽に使える環境作りはとても大切だ。

■一つの漢字にとことん向き合う

筆者の授業で最も漢和辞典を引くのは、やはり漢詩の授業である。「推敲」のくだりではないが、漢詩には、一つ一つの漢字に作者の思いが凝縮されているので、「なぜ、この漢字が使われているのか?」「この漢字にはどのような意味が込められているのだろうか?」という問いが立てやすく、生徒たちからもさまざまな意見が出るので議論しやすい。こうした経験から、漢詩の授業は、漢和辞典を使ったアクティブ・ラーニングに適しているのではないかと以前から思っていた。

一方、生徒たちは持つてこなければいけない荷物が多く、漢和辞典、国語辞典、古語辞典、英和辞典など、その都度紙媒体の辞書を持ち運びさせることは非現実的だ。電子辞書は便利だが、やはり紙の辞書を引かせたいという思いは強い。経験則だが、電子辞書で引くよりも、紙の辞書を引くほうが記憶に残りやすい気がする。しかし持つてこさせるのは難しいというこのジレンマ……。そこで筆者は、図書館に多種類の漢和辞典を用意して図

漢詩の読解からさらに一歩踏み込んだ活動として、生徒たち実際に漢詩を作らせてみると、猛烈に漢和辞典を引くようになる。なぜなら、漢詩を作成するためには、平仄の規則を知らなければならず、漢和辞典には平仄が掲載されているので、規則にのっとって漢詩を作成するために、漢和辞典を引かなくてはならないからだ。ただし、漢和辞典を引くだけでは漢詩はできない。一人で漢詩を作成するのはなかなか難しいので、グループでチ

ヤレンジさせている。グループで漢詩を作っていると、自然とグループ内で一つの漢字をめぐる議論になり、とても興味深い。次の漢詩は、実際に高校二年生の男子生徒が作成した漢詩である。

光花燃宙下 光花宙の下に燃ゆ
 与媛共逍遙 媛と共に逍遙し
 長年有忍思 長年忍ぶ思ひ有るも
 告月幽閑宵 月に告ぐ幽閑の宵



訳 火花が空の下で燃える頃、／好きな女の子と一緒にもの思いにふけりながら歩いていた。／長い間心に秘めていた自分の思いを／月に告げるもの静かな夜。

細かな平仄の規則には外れているもの、おおむね漢詩の雰囲気醸している良作と言えるだろう。ちなみに、この詩は、好きな女の子と火花大会と一緒に出かけ、告白を試みるも失敗に終わっ

た、という実話がネタのようである（この漢詩を提出したあと、打ち明けてくれた子がいた）。この授業のポイント、漢詩を作成するときのグループ内の議論である。今回の詩の場合、第二句の「媛」と「逍遙」で議論があった。

まずは「媛」である。「好きな女の子」を表現するのに、どのような漢字を使うべきか、がグループ内の最初の議論になった。最初は「娘」という字を使っていたが、平仄の問題で「娘」の字が使用できない。また、「娘」はこの情景ではふさわしくない、との意見もあった。こういった意見が出た後、グループの四人は、一斉に漢和辞典を引き始めた。辞典を引きながらさまざまな漢字を提案していくなかで、「たおやかな、うつくしい」という意味を持ち、「ひめ」という意味もある「媛」という字に落ち着いた。彼らがこの「媛」の字にたどり着くまで、授業まるまる一時間を費やしている。漢詩を作成した後で、このグループの生徒たちに感想を聞くと、この時の議論が一番面白かったし記憶に残っていると云っていた。

次に「逍遙」である。「もの思いにふけりながら歩いていた」というニュアンスをどう漢字で表現すればいいのか。漢和辞典だけでは埒があかず、グループで国語辞

典や類義語辞典も使いながら、じっくりくる言葉を探し始めた。「散策」「徘徊」「彷徨」などいろいろな語が出てきたが、彼らは「気ままにあちこち歩き回る」というニュアンスの「逍遙」という言葉にたどり着いた。漢和辞典以外の辞典も自由に使えるところが図書館授業の大きなメリットである。

このように、漢詩で自らの思いを表現することを通して、一つの漢字にじっくりと向き合うことができるようになり、漢字を記号ではなく、意味をもつものとして認識することができる。こういった認識を持つためには、漢和辞典の存在は欠かせない。「博」に「、」をつけるべきか悩む生徒がいなくなるように、これからは漢和辞典を駆使して、漢字を教えていきたいと思っている。

「漢詩と辞典でアクティブ・ラーニング」単元学習
 指導内容と時間配当（全四時間）

対象生徒：高校二年生

1. 近体詩の基本を学ぶ：一時間（二斉授業）

学習材 于武陵「勸酒」

目標 近体詩の種類・構成・規則を理解する。

「勸酒」の内容を把握する。

ポイント 最初の時間で近体詩の基礎を学習する。単元の最後に

漢詩を作成するので、ここで平仄の規則をしっかり教えておく。

2. 表現の基本を学ぶ……一時間（二斉授業）

学習材 柳宗元「江雪」

目標 「江雪」の前半二句だけを読み、季節や状況を把握する。

ポイント 漢和辞典を使って、漢字から語句の意味を連想する。

ポイント この時間で、漢和辞典の使い方と表現方法を学習する。「径」や「蹊」など、見慣れない漢字を調べることで、漢和辞典の使い方の基本を学ぶ。二句だけでなぜ季節や状況がわかるのか、を認識してもらい、直接的な表現をしなくても伝わるように表現することが大切であることを強調する。

3. 漢詩を作成する……二時間（グループ活動）

目標 近体詩の規則を理解し、詩を作成する。

グループで活発な議論をする。

ポイント 何もない状態から漢詩を作成するのは難しいので、平仄や同じ韻の語が並んでいる詩語表を配布する（参考文献参照）。詩語表を使用することで、まずは使えそうな語句を平仄の規則通りに当てはめていき、そこから自分なりの詩を作るという手順を踏む。前述の生徒の詩は詩語表を用いず、一から作成している。

平仄の規則はできるだけ厳密に守らせない。しっかり守ろうとして、より適した漢字を探すことになるので、むしろ良い作品が生まれる可能性が出てくる。

参考文献 新田大作「漢詩の作り方 新装版」明治書院 一九六九年

石川忠久「漢詩を作る」大修館書店 一九九八年

訓読が意味まで表す句法②

塚田 勝郎
元筑波大学附属高等学校

1 限定・強調の形の特徴

今回は、句法指導の最終回です。前は比較・選択、仮定、詠嘆の三つの句形について、訓読と解釈が直結していることを確認しました。ここで取り上げる限定・強調の形にも、同じ特徴があります。例を挙げましょう。

A 祗辱^ダ於^メ奴隸^シ人之手^ニ、……。(韓愈・雜説)
B 直^ダ不^ラ百步^ヲ耳。(孟子・梁惠王上)

Aでは、「祗」を「たダ」と読むことがわかれば、「ただ」使用人の手で粗末に扱われるだけで、「と解釈できません。Bでも、「直」を「たダ」と読めれば、「ただ百歩でないだけだ。」と解釈するのは難しくありません。文末の「耳」についても、「のみ」と読み、「ただ」と呼応して「……だけ」の意味であることを知っていれば、鬼に金棒でしょう。このように限定・強調の形は、その意味を表す文字を読む

ことができれば、解釈を容易に推測できるのです。

ただし、限定・強調の意味を表す文字は少なくありません。「ただ」だけを見ても、「唯」「惟」「只」「但」「直」「徒」「特」のように多くの種類があります。特殊な「顧」「啻」まで覚える必要はありませんが、先に挙げた八字はしっかり記憶に留めたいものです。また「のみ」については、「耳」だけではなく、「已」やその複合語である「也已」「而已」も確実に押さえさせましょう。

いつものように授業プリントを次ページにお示しします。

2 限定・強調の形の指導上の留意点

タイプ1には、「ただ」と読む文字を幅広く配列しました。いずれも「ただ」と読む可能性があることを強く意識させましょう。「但」を日本語の連想で「ただし」と読む生徒がいますが、これは日本語に限った用法であることもつけ

その他の形2

句法シリーズ#08

(1) 限定・強調の形

■タイプ1 「ただ」と読む文字を用いて「ただ……だけ」と述べる形。

孤帆遠影碧空尽、唯見長江天際流

(李白・黃鶴樓送孟浩然之廣陵)

室中更無人、惟有乳下孫(杜甫・石壕吏)

行行無別語、只道早還鄉(袁凱・京師得家書)

故雖有名馬、祗辱於奴隸人之手、……。

(韓愈・雜説)

道旁過者問行人、行人但云点行頻

(杜甫・兵車行)

藺相如徒以口舌為勞、而位居我上。(史記)

相如度秦王特以詐詳為予趙城、實不可得、

……。(史記)

■タイプ2 文末に「のみ」と読む語を置いて「ただ……だけ」と述べる形。

放辟邪侈、無不為已。(孟子)

可謂好學也已。(論語)

書足以記名姓而已。(史記)

王、何必曰利。亦有仁義而已矣。(孟子)

二三子、偃之言是也。前言戲之耳。(論語)

非死則徙爾。(柳宗元・捕蛇者説)

★「耳」「爾」以外はすべて「已」を含んでいるのはなぜか、

考えてみよう。

★「耳」「爾」を「のみ」と読むのはなぜか、考えてみよう。

■タイプ3 「ただ」と読む文字に「のみ」と読む語を添えて「ただ……だけ」と述べる形。

直不百步耳。是亦走也。(孟子)

■タイプ4 その他の文字を用いて「ただ……だけ」と述べる形。

今独臣有船。漢軍至、無以渡。(史記)

■限定と強調の見分け方 限定と強調は、形だけでは見分けがつかず、文脈で判断するしかない。

① 法三章耳。殺人者死。傷人及盜抵罪。余

悉除去秦法。(史記)

② 未有封侯之賞。而聽細説、欲誅有功之人。

此亡秦之統耳。(史記)

★どちらが強調の意味の例文か、考えてみよう。

加えておきたいものです。

タイプ2では、「已」と他の語との関係に気づかせることが重要です。

板書例

○文末の「のみ」

已^イ…「やむ・おわる」の意味から「それだけ」の意味に。

← 也^ヤ已^イ…「也」を添えて「已」の意味を強める。

而已^{シイ}…「而」を添えて「已」の意味を強める。

〔耳〕〔爾〕…「而已」の当て字。

限定と強調の見分け方は、簡単ではありません。「限定・強調の形」と一括りの名称にしている理由も、そこにあります。限定か強調かは、文脈で判断するしかないのです。仮に次のような例文を示して、どちらが強調の意味の例文かを答えよ、という問題があったとしたら、解答は可能でしょうか。

- ① 法^ハ、三章耳^ニ。
- ② 此^レ亡秦之続耳^ニ。
- ③ ①は限定、②は強調らしいとは思えるものの、確信は持てません。例文を現代語に置き換えてみましょう。
- ④ 法は三か条だけだ。人を殺す者は死刑にする。人を

板書例

○抑揚の形 「A且^カB、況^ハC乎^ヤ。」が典型。

前半部ではトーンを抑え、後半部で一気にトーンを揚げるので、「抑揚」の形と呼ぶ。

〈トーンを抑える〉 〈一気にトーンを揚げる〉

AでさえBだ、ましてCはなおさらだ。

授業プリントの「抑揚の形」の部分を示します。

その他の形2(承前) 句法シリーズ#08

(2) 抑揚の形

■タイプ1(典型) 「A且^カB、況^ハC乎^ヤ。」の形。「且^カ」の代わりに「尚^{ナホ}」が用いられることもある。

死馬且買之。況生者乎。(十八史略)

庸人尚羞之。況於将相乎。(史记)

■タイプ2 典型の前半部を平叙文に置き換えた形。

古人秉燭夜遊、良有以也。況陽春召我以煙景、大塊假我以文章。(李白・春夜宴桃李園序)

■タイプ3 典型の一部を反語文に置き換えた形。

臣死且不避。卮酒安足辭。(史記)

王必欲致士、先從隗始。況賢於隗者、豈遠千里哉。(十八史略)

傷ついたり、物を盗んだ者は、罪にあてて処分する。

これ以外の秦のむごい法律は、すべて廃止しよう。

⑤ いまだに諸侯に取り立てる恩賞もなく、それどころか、つまらぬ者の告げ口を聞き入れ、功労のある人を殺そうとする。これでは亡んだ秦の二の舞となるだけだ。

このように比較してみると、④は限定の意味、⑤は強調の意味であることは一目瞭然でしょう。ただし、限定と強調の区別が明瞭ではないことも多く、深入りは禁物です。

3 抑揚の形の「抑揚」とは？

ここまで四種の句形について、名称と解釈が直結していることを指摘してきましたが、抑揚の形の場合は、その名称が解釈をストレートに反映しているとは言いがたい面があります。そもそも「抑揚」とは、どういう意味でしょうか。一般的には次のように説明されます。

「A。況^ハB乎^ヤ。」の形で、「Aでさえこうだ。ましてBはなおさらだ」と、Aを抑えておいてBを揚げる(強調する)、という形。(江連隆『訓読百科』「漢詩・漢文解釈講座」別巻、一九九五年、昌平社)

非常に丁寧な説明ですが、高校生には難解に感じられるようです。そこで筆者は、次のように説明しています。

4 抑揚の形の指導上の留意点

高校生の多くは、なぜか「Aすら且つB、況んやCをや。」という口調にアレルギー反応を示します。「いわんや」が、よほど古めかしい言い方に聞こえるのでしょうか。使役の形の習熟に「AをしてB(せ)しむ。」という基本パターンの体得が不可欠であるのと同様に、抑揚の形を身につけるためには、「Aすら且つB、況んやCをや。」が口から滑らかに出てくる状態にならなければなりません。その際には、記号を使ったパターンではなく、基本的な例文を何度も音読し、記憶に残す方法が有効です。

最後に、句法指導にあたっての筆者の考え方を整理しておきます。「句法さえ知っていれば漢文は読める」という考え方は、誤りです。漢文学習の中で、句法学習の優先順位は高くはありません。何よりも、教師自身が句法学習の意義を理解し、句法を適切に扱うことが求められます。句法学習は手段であって目的ではないことを、肝に銘じたいものです。

今回は、漢文読解に必要な慣用表現を扱います。

この連載は大修館HP内「WEB国語教室」でも読むことができます。次回は「WEB国語教室」に12月頃アップ予定です。

『源氏物語』で繋ぐ古典教材

こばやし けんた
小林賢太
学習院女子中・高等学校

◆はじめに

古典の教科書には多くの作品が収録されているが、当然ながらその全てを授業で扱うことはできない。限りある時間の中でどの作品を教材として取り上げるべきか、十分に考慮する必要があるだろう。その際、様々な基準が考えられるが、作品同士の繋がりを重視する視点も有効である。各教材を関連づけながら学ぶことで、学習内容の体系化や文学史の把握に繋げていくことが可能となり、古典文学への理解がより深まるはずである。これまでも有馬義貴氏^①や田口和夫氏^②など先学諸氏が、教材同士の関連性について言及している。特に有馬氏は定番教材同士の繋がりについて具体的に論

じており、本稿でも多くの示唆を得た。だが定番教材と言えども、教科書ごとに収載作品や掲載部分は異なるし、未収録の作品をプリントにして配布するというのも一手間かかってしまう。

そこで本稿では、一冊の教科書の中で教材同士をどこまで関連づけていくことが可能かを検討してみたい。考察対象とする教科書は、大修館書店『古典B 改訂版 古文編』(古B 339)である。また教材の繋がりを考える際は、定番教材として取り上げられることの多い『源氏物語』を中心に置き、作品同士の繋がりがや関連性を考察していく。

◆『伊勢物語』との関連

まずは『伊勢物語』「初冠」(p.40)と『源氏物語』「若紫」(p.112)を繋げてみたい。

古くから指摘されているように、『伊勢物語』初段「初冠」は、『源氏物語』若紫巻との共通点が多い。『伊勢物語』の男が詠んだ「春日野の若紫のすりころもしのぶの乱れかぎりしられず」という歌と『源氏物語』の「若紫」という巻名、また男も光源氏も垣間見によって女を見出す点などが類似しており、両作品には影響関係が確認できる。

こうした共通点に気づき、作品の前後関係を意識することは、文学史の学習に応用していけるし、古典文学が先行作品を受容しながら発展していったことを理解する手

助けとなるだろう。しかし『伊勢物語』と『源氏物語』では相違点もある。

三田村雅子氏が指摘するように、『伊勢物語』の男が狩りという若者らしいスポーツを契機に、旧都で美しい姉妹を発見するのに対し、光源氏は病氣平癒の加持祈禱に訪れた北山で、尼君とその幼い孫娘を垣間見る。『源氏物語』は『伊勢物語』を踏まえながらも、とどころでずれており、その「ずれ」に『源氏物語』の独自性が生まれ、物語が展開していく。有馬氏もこうした「重なりとずれ」に着目する有用性を述べているが、教材同士を関連づける際は、作品同士の共通点を確認することで影響関係や話型を理解していくと同時に、相違点を意識することで、先行作品を乗り越えながら発展していく古典文学の様相に気づくことも有意義であろう。

『伊勢物語』「初冠」の垣間見する男は、『源氏物語』後半、宇治十帖の薫にも重なるが、両者の姿はより近似する。『橋姫』(p.220)では、薫が宇治の八の宮邸で大君と中の君という姉妹を垣間見る。貴公子が都から離れた地で「女はらから」を垣間見る構造は、

まさに『伊勢物語』初段そのものであり、この垣間見を発端に宇治十帖は展開していく。また宇治という地で思いがけず優美な姉妹を見出したことについて、薫は「昔物語などに語り伝へて、若き女房などの読むをも聞くに、必ずかやうのことを言ひたる、さしもあらざりけむ、と憎く推しはからるるを、げに、あはれなる物の隈ありぬべき世なりけりと、心移りぬべし」と思うが、ここで言う「昔物語」には『伊勢物語』も含まれているのではなからうか。

『伊勢物語』初段の垣間見する男の姿は、『源氏物語』においては若紫を垣間見る光源氏、宇治の姫君達を垣間見る薫へと重なりながら、物語を大きく動かしていく。

なお「垣間見」という行為に注目すれば、『源氏物語』「若菜上(二)」(p.211)との関連づけも可能であろう。「若菜上(二)」では、女三宮が飼っている二匹の猫が駆け回った結果、御簾が捲れあがり、柏木が女三宮を垣間見してしまう。「垣間見」という語は用いられないものの、この出来事を契機に柏木の恋心はますます増幅し、やがては女三宮との密通に至る。「垣間見」とは重要人

物たちの出会いを演出する一方で、危機をもたらす装置にもなり得るのである。王朝物語における「垣間見」という行為の重要性が改めて確認できよう。

◆『大鏡』との関連

次に『大鏡』「道真左遷」(p.66)と『源氏物語』「須磨」(p.199)を繋げてみたい。

『源氏物語』「須磨」では、自身に厳しい政情を鑑みた光源氏が、自ら都を去って須磨・明石の地へと退くが、才覚を妬まれ都を追われる姿は、左遷された菅原道真と重なる。教科書内では『大鏡』が道真の姿を描くが、大宰府へ赴く途中の描写のひとつに「播磨の国におはしまし着きて、明石の駅といふ所に御宿りせしめたまひて」とある。両者とも明石を訪れており、ここでも光源氏と道真は重なってゆく。

さらに美文の誉れ高い須磨巻には引用が多いが、道真の詩も引用される。都を離れた光源氏が、かつて宮中で朱雀帝から衣を拝領した夜のことを思い出す場面では、道真が詠じた詩の一節「恩賜の御衣は今ここにあり」を誦しており、読者はますます光

源氏と道真を重ね合わせることになる。都を去り鄙に追われるという構図だけでなく、本文レベルでも両者は通ずるのである。

だが光源氏と道真では相違点もある。その一つが都への帰還である。道真は昌泰四年(九〇一)に大宰権帥として左遷され、都へ帰ることが叶わぬまま延喜三年(九〇三)に大宰府で没している。一方、光源氏は須磨・明石で沈淪時代を過ごすものの、やがては宣旨により帰京が許される。しかも明石の地では明石の御方との間に娘を儲け、その娘はやがて中宮となり、彼の権力を支える存在となる。また須磨の地で光源氏が手すさびで描いた絵は、後に絵合巻で再登場し、彼の非凡を再確認させることとなる。結果として、淪落の時ですら光源氏にとっては無駄ではなく、その後の再起へと繋がっていくのである。こうした点で、光源氏と道真の差異は極めて大きい。両者の共通点と相違点に気づくことで、史実と物語のずれを押さえ、光源氏がいかに超人的な存在であったかを理解することに繋げていけるだろう。

なお光源氏の須磨退去は、いわゆる「貴

基本的には夫の訪れを待つ身の上である。

紫の上に至っては「御衣どもなど、いよいよたきしめさせたまふ」と、女三宮の元へ通う光源氏の装束を整えるだけでなく、「とみにもえ渡りたまはぬを、『いとかたはらいたきわざかな。』と、そそのかしきこえたまへば」とあるように、なかなか女三宮の所へ行かない夫に対し、これでは自分が引き留めているようで外聞が悪いから早く女三宮のもとへ行くと勧めるのである。

こうした「待つ女」の苦悩を理解するには、通い婚という当時の婚姻形態を把握しておくことが必要不可欠だが、『蜻蛉日記』と『源氏物語』「若菜上(一)」をあわせて読むことで、こうした知識の理解と定着が期待できる。

なお結婚に関して言えば、紫の上自身は幼少期に光源氏に引き取られてしまったため、正式な婚儀を経ないことは押さえおきたい。加えて道綱母のように子を儲けることもなかったため、正妻としての地位は脆く、光源氏の愛だけがその立場を支えているのである。『蜻蛉日記』と関連づけながら読むことで、こうした紫の上の微妙

種流離譚」に当たるのであるが、これは「竹取物語」のかぐや姫や「伊勢物語」の主人公の男も同様である。こうした話型への着目についても既に有馬氏が述べているが、月へ行つたまま戻らぬかぐや姫や、権力から遠い「伊勢物語」の主人公に対し、光源氏は流離の末に政界復帰を果たし、以後は順調に栄達していく。こうした話型の観点から共通点、相違点を見つけていくことも効果的だろう。

◆「蜻蛉日記」との関連

次に『蜻蛉日記』「町の小路の女」(p.180)と『源氏物語』「若菜上(一)」(p.208)との関連性に言及したい。

『蜻蛉日記』「町の小路の女」は、道綱を出産した直後の作者が、夫が他の女に送ろうとした文を見つけることに端を発する。その後、夫の兼家について「三夜しきりて見えぬ時あり」と書かれるが、この「三夜」が他の女との結婚を想起させることは言うまでもない。当時の結婚の習慣として、男が三日連続で女の元に通い、三日目に結婚を披露する露頭が行われることは古典常識

な立場を浮かび上がらせることも可能であろう。

◆おわりに

以上、『源氏物語』を中心に置き、一冊の教科書内で教材同士をどう繋げていけるか検討してみた。ここで述べた以外にも、『更級日記』「あこがれ」(p.94)、「源氏の五十余巻」(p.96)には共に『源氏物語』への言及があるし、『無名草子』「紫式部のこと」(p.226)には『源氏物語』誕生に関する言説がある。これらもまた『源氏物語』が繋ぐ古典教材となり得る。

教科書には様々な教材が並ぶが、個々の作品を関連づけることによって、学習の意義はさらに深まっていくだろう。作品同士の共通点や相違点を考えることで、成立の前後関係や構想・本文の影響関係、さらには作品の独自性に気づくことが可能となり、古典文学を体系的に捉えることに繋がっていくはずである。

として押さえておきたいが、これが『源氏物語』「若菜上(一)」と繋がる。

「若菜上(一)」では光源氏の元に、朱雀院の愛娘である女三宮が降嫁してくる。その婚儀は盛大なものであり、光源氏の正妻が女三宮となったことを物語る。これにより、これまで正妻格であった紫の上は、その地位を女三宮に譲ることになった。紫の上は光源氏と暮らしていた六条院・春の町の寝殿を女三宮に明け渡し、光源氏と共に東の対へ移り住む。光源氏はそこから寝殿の女三宮の元へ通うのだが、その折の記述に「三日がほどは、夜離れなく渡りたまふ」とある。ここにおける「三日」もまた、結婚の成立を示している。

生徒が古典文学を読解する際の障害の一つに、当時の習俗や慣例への理解という問題があるが、右の二場面は婚姻に関する習慣を理解し、知識を定着させていくうえで有効であろう。さらに両作品に共通して浮かび上がってくるのは「待つ女」の姿である。夫が他の女の元に三日連続で通う(婚姻関係を結ぶ)状況に対し、道綱母は門を閉ざすという行為で拒否を示すものの、

【注】

- (1) 有馬義貴「定番教材(学習材)を繋ぐ古典教育(学習)——平安時代の文学作品を例として——」『日本文学』六四・一(二〇一五年一月)。
- (2) 田口和夫「『伊勢物語』第一段と『源氏物語』——「うひかうぶり」と「いちはやきみやび」——」『国語教室』一〇六(二〇一七年十一月)。
- (3) 引用する本文や頁数は全て同教科書に拠る。
- (4) 植田恭代「北山での垣間見」(『新しい作品論』へ、「新しい教材論」へ「古典編」1 文学研究と国語教育研究の交差」右文書院(二〇〇三年)にも同様の指摘がある。
- (5) 三田村雅子『源氏物語—物語空間を読む—(筑摩書房 一九九七年)。

美留町義雄 著 軍服を脱いだ鷗外

青年森林太郎のミューゼン



四六判・上製・二五八ページ
定価Ⅱ本体二六〇〇円十税

評者Ⅱ中村邦生
作家

森鷗外のドイツ体験といえ
ば、まずは「舞姫」を生んだベ
ルリンということになるだろ
う。著者は前書『鷗外のベル
リン』において、交通・衛生・メ
ディアをキーワードに鷗外のベ
ルリン体験の意味を明らかにし
た。その研究を発展させ、本書
では従来ほとんど看過されてき
たミュンヘン体験を、鷗外の文
献資料と当時の文化的背景を丁
寧に照合させて論じている。

「び人」として過ごすミュンヘン
の鷗外を、歴史ドラマを観るよ
うに活写する。原田直次郎ら画
家たちとの自由かつ意欲的な交
流、居酒屋でビールの大杯を傾
ける戯れの時間など、カーニバ
ル都市ミュンヘンを満喫しつ
つ、若き文学者として魂を育む
鷗外がいる。

現地調査をふまえた第一次資
料の解説による考察や、学術的
な考究の深さを維持しつつ、読
みやすい語りの文体を実現して
いることだけでも特筆すべき一
書である。

F・H・ファン・エイムレン／A・F・スヌック・ヘンケマンス 著 松坂ヒロシ／鈴木健 訳 議論学への招待

建設的なコミュニケーションのために



A5判・並製・二五六ページ
定価Ⅱ本体二七〇〇円十税

評者Ⅱ新川 晶

本書は、議論を体系的に論じ
る「議論学」という研究分野の
入門書の翻訳である。議論と聞
くとディベートの試合などが思
い浮かぶが、ここで扱われる議
論は対立的なものではなく、共
同して行われるものであること
が、冒頭で宣言される。

陥りがちな誤謬を排し、事実に
基づいて解を追求する精巧なプ
ロセスが成立している。
そして本書において、このき
め細かな理論の理解を助けてく
れるのが、豊富な具体例である。
例示される議論とその分析には、
なるほどと膝を打つものが多く、
実際に見聞きしたやり取りが思
い起こされる。さまざまな
意見がすれ違いや「炎上」に終
わる事例も多い。昨今、それでも
異文化との共生を誠実に模索し
ようとする読者にとって、本書
は頼もしい道標となるだろう。

木村秀次 著 身近な漢語をめぐる



四六判・並製・二四〇ページ
定価Ⅱ本体二〇〇〇円十税

評者Ⅱ白井田花

国語辞典を開いてみると、平
仮名、片仮名、漢字など、さま
ざまな言葉が並んでいる。その
中でも半数に及ぶという、音読
みの漢字の言葉が漢語だ。

「漢語」というと、中国語や難
しい熟語がぱっと頭に浮かび、
身構えてしまうかもしれない。
しかし、国語辞典の見出しの半
分を占めることからわかるよ
うに、私たちは日常的に、何気
なく漢語を使っている。

本書では、この身近な漢語に
焦点を当てる。たとえばこの「焦
点」という漢語、これはオラン

ダ語の翻訳語として成立したそ
うだ。さらに「焦点」か「焼点」
かという表記の問題、物理用語
から比喩的な意味が発生した過
程など、多岐にわたる観点から
考察を試みている。中国の詩文
だけでなく、夏目漱石や徳富蘆
花など、日本の文学者の用例を
あげているのもおもしろい。

柔らかな文体で綴られた著者
の思索に誘われて、いつの間
に自らも言葉についてあれこれ
思いをめぐらせている。言葉の
おもしろさ、奥深さを教えてく
れる一冊だ。

渡部信一 著 AIに負けない「教育」



四六判・並製・二一〇ページ
定価Ⅱ本体一八〇〇円十税

評者Ⅱ木村 信

最近何かと人間とAIを比較
するような風潮にある。確かに
近年のAI研究の発展は著しい。
本書ではAI研究がたどって
きた開発の変遷を説明しつつ、
現代の教育方法を検討していく。
例えば、かつての人工知能研
究はフレーム問題に直面し頓挫
してしまっただけでなく、同様に知識偏重
の教育現場でも、学力という枠
に収まらない能力の必要性を感
じ試行錯誤していた。

AI研究が編み出したフレー
ム問題解決への手法と近年教育
で提唱されているアクティブラ
ーニング両者に共通するコンセ
プトは、学習者による自律的な
学習である。本書は説く。
問いと答えのセットを与えて
問題の解き方を発見するのを待
ち、その後共同で学習させると
いう発想は、両者に共通する顕
著な例であろう。

では、AIに負けない能力と
は何か。著者は学習者自身が持
つフレームに注目する。このフ
レームとは学習者自身の経験か
ら形成され、学習への能動性に
大きな影響を与える。情報社会
を生き抜く必須の能力である。

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

教育行政関係

- 学習指導要領公表 (3/30)
- 平成 30 年度全国学力・学習状況調査 (4/17 実施、7/31 公表)
- 「高校生のための学びの基礎診断」認定の申請状況公表 (7/13)
- 学習指導要領解説公表 (7/17)
- 高校教科書検定基準一部改正案公表 (7/27)
- 青少年ネット環境基本計画改定 (7/27)

時事

- 本屋大賞は辻村深月『かがみの孤城』(4/10)
- 2018 年ノーベル文学賞発表見送り。次年度併せて発表予定 (5/4)
- 改正著作権法成立。教材のネット送信も許諾不要に (5/18)
- 改正民法成立。18 歳で成人に (6/13)
- 「潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産登録決定 (6/30)
- 東京五輪競技スケジュールの大枠決定。33 競技 339 種目 (7/18)
- 芥川賞は高橋弘希「送り火」、直木賞は島本理生「ファーストラブ」(7/18)
- 埼玉県熊谷で最高気温 41.1℃を記録 (7/23)

全国学力・学習状況調査

4月17日に実施された「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果が7月31日に公表された。調査は国語、算数・数学、理科の三教科、小学六年、中学三年の全児童・生徒を対象に行われている。

詳細は、国立教育政策研究所のサイトで入手可能である。(http://www.nier.go.jp/18housakkehakoukoku/index.html)

高校生のための学びの基礎診断

7月13日、「高校生のための学びの基礎診

断」の試験認定の申請状況が公表された。9 事業者から 27 種類の試験の申請があったという。これは基礎学力の定着度合いをはかる民間の試験等を認定して実施する制度で、2018 年度から認定開始、2019 年度より本格的に高校で活用される（利用は任意）。対象教科は国・英・数。

(http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1393878.htm)

学習指導要領解説の公表

7月17日、文部科学省は3月に公表され

た高等学校学習指導要領の解説を公表した。文科省サイトで入手が可能である。

(http://www.next.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm)

ノーベル文学賞発表見送り

5月4日、ノーベル文学賞を選考するスウェーデン・アカデミーは、2018年の文学賞受賞者発表を見送る方針を明らかにした。選考委員の夫による性的暴行疑惑が浮上、また選考情報が外部に流出した恐れがあることから、会長及び委員5名が辞任した。今年の文学賞受賞者については、来年2019年に併せて発表される予定。

改正民法成立

6月13日、改正民法が成立し、2022年から成人年齢が18歳に引き下げられることになった。女性の婚姻可能年齢も18歳に引き上げられるが、飲酒、喫煙などが可能になる年齢は従来通り20歳である。

世界遺産に「潜伏キリシタン」関連遺産

6月30日、ユネスコの世界遺産委員会は、

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(長崎、熊本県)の世界文化遺産登録を決定した。「潜伏キリシタン」とは、江戸時代の禁教期に仏教に改宗したと見せかけつつ密かに信仰を続けたキリシタンのこと。現在日本は自然遺産4件、文化遺産18件が登録されている。

東京五輪スケジュールの大枠決定

2020年に開催される東京オリンピックの競技スケジュールの大枠が7月18日に決定された。開会式が7月24日、閉幕が8月9日の17日間、33競技339種目が42の競技会場で行われる。東京オリンピック・パラリンピックに関する情報や取り組みは、以下の公式サイトに掲載されている。(https://tokyo2020.org/jp/)

熊谷で国内最高気温41.1℃を記録

7月23日、国内観測史上最高気温41.1℃を熊谷で記録した。総務省消防庁によると熱中症による救急搬送も昨年同時期の倍(2017年7月26702人→2018年7月51220人)となるなど、2018年は記

研究会だより

全国高等学校国語教育研究連合会 第51回 研究大会 秋田大会

日時 11月16日(金)・17日(土)
場所 秋田市内6高校及び秋田市文化会館大ホール
参加費 7000円
問合せ 秋田大会事務局(秋田県立秋田中央高等学校内)TEL 018-845-0921 担当 牛丸優子 Email: ushimaru-yoko@akita-pref.ed.jp

日本漢字学会第一回研究大会

日時 12月1日(土)・2日(日)
場所 京都大学総合人間学部棟及び国際イノベーション棟
問合せ(公財) 日本漢字能力検定協会 漢字文化研究所内 TEL 075-757-8686
Email: jscc@kanken.or.jp
HP: https://jscc.org/

大修館書店の国語便覧・学習辞典のご案内

新学習指導要領も、 新テストも、 (大学入学共通テスト) これで万全！



辞書120%活用アプリ!



動画 × **ドリル**
アプリサービス付き!

*来春よりサービス開始



学びを深める動画リンク

まなび動画 Navi

はじまります!

大きく見やすいサイズで国語の世界に親しむ

New! まなび動画 Navi 生徒用

スマホ・タブレットなどで視聴できる関連動画や音声を紹介。

- 古典の世界
- 最新時事問題
- 作家本人による朗読
- 作家・作品紹介 ほか

CD-ROM 準拠 CD-ROM 指導用

授業で活用できるデータを満載!

New! ● まなび動画活用ワークシート
New! ● 新テスト&アクティブ・ラーニング対応ワークシート

- 小論文のためのワークシート
- 本文データ ● 画像データ
- 準拠問題データ ● 教科書教材対照表

ビジュアルカラー 国語便覧

大修館書店編集部 [編]
B5判・496ページ・オールカラー
本体 880円+税



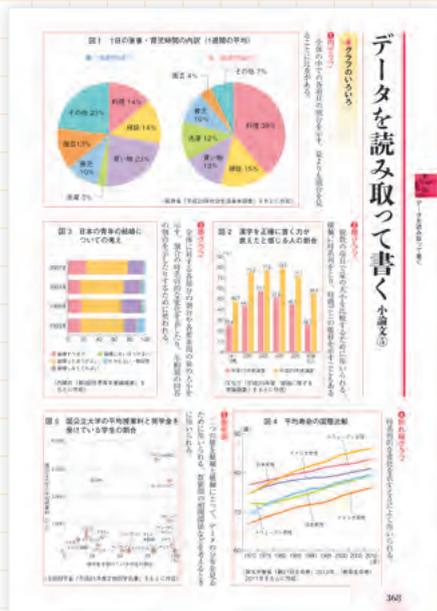
書く力・語彙力

「書く力」と、それを支える確かな語彙力が重視される新テスト。
『ビジュアルカラー国語便覧』は、語彙力と表現力の基礎から応用まで無理なく身につく「言葉と表現編」が充実しています。



図表・データ

統計データやグラフの読み取り、それらをふまえてレポート・小論文を書くためのページが充実しています。



言語文化・ 探究学習

● 古典から現代につながる伝統的な言語文化を視覚化したページを豊富に掲載しました。
 ● アクティブ・ラーニング、探究学習に活用することができます。

新全訳古語辞典

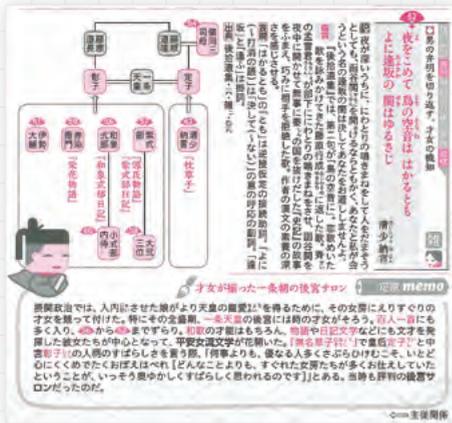
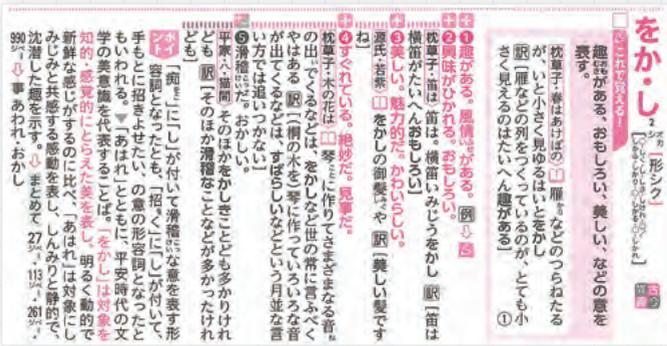


林巨樹・安藤千鶴子 [編]
B6判・1,232ページ・2色刷
本体 1,800円+税



語彙・文法

新テストでも、重要古語や古典文法の正確な理解力は引き続き求められます。『新全訳古語辞典』なら、ビジュアルな工夫や丁寧な解説で、語彙・文法の力を確実に身につけられます。



辞書120%活用アプリ!



動画 × ドリル
アプリサービス付き!

*来春よりサービス開始

動画 ベリタス・アカデミー阪田先生の「古文文法・重要語活用講義」
ドリル 最重要語を覚えるための古文ドリル

明鏡国語辞典

第二版



北原保雄 [編]
B6変型判・1,954ページ+別冊96ページ
本体 2,900円+税



語彙力

確かなことばの力は、テストが変わっても引き続き求められる、大切な基礎力です。画期的な別冊索引や、定評のある丁寧な解説で、確実に語彙力を身につけることができます。

きん・せん【琴線】(名)●琴の糸。●物事に感動し共鳴する胸奥の心情。「心の」に触れる話(通動)「琴線に触れる」を触れられたくないこと、不快な話題に触れる意で使うのは誤り。「×私の一言が彼の琴線に触れたのか、急に怒り出した」

「極まる」と「窮まる」の使い分け

極まる 469

極み

×「贅沢な極み」 極み 469

極める

「極める・窮める・究める」の使い分け

極める 469

琴線に触れる

間違えやすい「琴線に触れる」の意味

琴線 ②(注意) 474

別冊「明鏡 問題なことば索引」から、間違いやすい用法、敬語などを引ける!

和歌・古典常識

「言語文化」がますます重視される新学習指導要領下では、和歌や古典常識への理解力も試されることとなります。『新全訳古語辞典』は、和歌・古典常識・文学史に関わる3つのミニ辞典を収録。楽しく学べます。



言語文化

新テストに向けたモデル問題例では、「日本の言語文化に特徴的な語句」の知識をふまえた出題も見られました。『明鏡国語辞典』は、さまざまな観点で言語文化にふれられるコラムが充実しています。

辞書120%活用アプリ!



動画 × ドリル
アプリサービス付き!

*来春よりサービス開始

動画 サンキュータツオ校閲室長の「明鏡校閲式へようこそ!」
ドリル 敬語とことばの使い方問題集

豊富な用例すべてに現代語訳付き

新漢語林

第二版



鎌田正
米山寅太郎

鎌田正・米山寅太郎 [著]

B6判・1,952ページ・2色刷
本体 2,900円+税



語彙・句法

新テスト対策でも、従来の入試と同様に出题される語彙・句法などの理解には、用例を用いてわかりやすく解説している「助字・句法解説」が役立ちます。

【例】 5画 8967 コウ 固まる

字義 ① やしくも。かりそめに。かりそめにも。② 助字・句法助助。③ かりそめに。いやしくもする。④ 一時の間に入る。⑤ いかげんに。なまじりにする。⑥ まじりに。⑦ 大学。⑧ 荷日新語。⑨ 日新語。⑩ まじりに。⑪ 日に新し。⑫ 日に日に新くなる。⑬ どぞぞまじりに。⑭ 草の名。

【例】 ① 固まる

① 固まる。② 固まる。③ 固まる。④ 固まる。⑤ 固まる。⑥ 固まる。⑦ 固まる。⑧ 固まる。⑨ 固まる。⑩ 固まる。⑪ 固まる。⑫ 固まる。⑬ 固まる。⑭ 固まる。⑮ 固まる。⑯ 固まる。⑰ 固まる。⑱ 固まる。⑲ 固まる。⑳ 固まる。㉑ 固まる。㉒ 固まる。㉓ 固まる。㉔ 固まる。㉕ 固まる。㉖ 固まる。㉗ 固まる。㉘ 固まる。㉙ 固まる。㉚ 固まる。㉛ 固まる。㉜ 固まる。㉝ 固まる。㉞ 固まる。㉟ 固まる。㊱ 固まる。㊲ 固まる。㊳ 固まる。㊴ 固まる。㊵ 固まる。㊶ 固まる。㊷ 固まる。㊸ 固まる。㊹ 固まる。㊺ 固まる。㊻ 固まる。㊼ 固まる。㊽ 固まる。㊾ 固まる。㊿ 固まる。

① 固まる。② 固まる。③ 固まる。④ 固まる。⑤ 固まる。⑥ 固まる。⑦ 固まる。⑧ 固まる。⑨ 固まる。⑩ 固まる。⑪ 固まる。⑫ 固まる。⑬ 固まる。⑭ 固まる。⑮ 固まる。⑯ 固まる。⑰ 固まる。⑱ 固まる。⑲ 固まる。⑳ 固まる。㉑ 固まる。㉒ 固まる。㉓ 固まる。㉔ 固まる。㉕ 固まる。㉖ 固まる。㉗ 固まる。㉘ 固まる。㉙ 固まる。㉚ 固まる。㉛ 固まる。㉜ 固まる。㉝ 固まる。㉞ 固まる。㉟ 固まる。㊱ 固まる。㊲ 固まる。㊳ 固まる。㊴ 固まる。㊵ 固まる。㊶ 固まる。㊷ 固まる。㊸ 固まる。㊹ 固まる。㊺ 固まる。㊻ 固まる。㊼ 固まる。㊽ 固まる。㊾ 固まる。㊿ 固まる。

言語文化

新テストに向けた試行調査では、日本における中国文化の影響や受容について問われました。『新漢語林』は、漢詩・漢文の理解を助けるコラムが充実。言語文化についての幅広い知識を押さえることができます。

平安漢詩

平安時代四百年のなかでも、嵯峨・天皇の弘仁元年（八一〇）から醍醐・天皇の延喜年間に至る約百年は、漢文学が極めて隆盛におもむいた時代であった。その成立した漢詩は、華秀園集、三上、六巻）を、最初の漢詩集年（七五二）の時代は、天皇を始め歴唐風謳歌の漢詩の模倣の多、ようやくとすく

江戸時代の漢学

徳川幕府は、その政治の支柱を、儒教、特に朱子学とした。治政の理念に儒教を置く統治者は少なくない。父子・兄弟・君臣・師弟など上下の関係を重視するその教えは、為政に適した面を持っていたのである。殊に、幕府の創始者家康は、林羅山などの漢学者を多量に召入するとともに、積極的に中国の書籍を多量に輸入するとともに、その翻刻普及に努めた。また、五代将軍綱吉が、幕府直轄の学校として昌平黌（湯島聖堂）を開くなど、家康の後継者たちも同じ方策を執った。このような幕府自らの積極的な普及奨励によって、漢学は空前の盛行を見るに至った。

辞書120%活用アプリ!



動画 × ドリル
アプリサービス付き!

*来春よりサービス開始

動画 見ればキミも漢文がわかる!
塚田勝郎先生の辞典活用講座

ドリル 助字や句法を覚えるための
漢文ドリル